

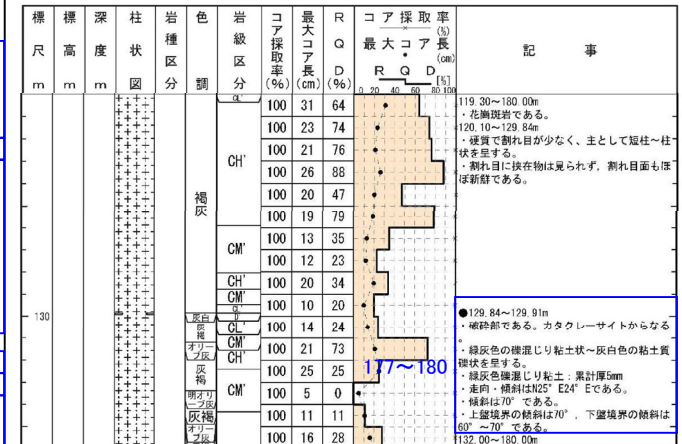
コア観察カード  
(H27年8月)

標高 (m)	深度 (m)	採掘 位置	層位	割れ目 状態	割れ目 方向	割れ目 長さ	割れ目 密度	観察区分		備考
								軟弱	硬軟	
130	128.05			X						128.05~128.78m: CH 堅硬。 128.05~129.00mにゆ着割れ目が開口割れ目化した80~90°割れ目が波打ちながら連続するが一部を除き片状化は認められない。
05	128.78			X						128.78m 33°割れ目に砂、φ2~3m/m細片化岩片を厚さ1~4m/mはさむ。
129	128.78			X						128.78~129.47m: CM 白い筋状のゆ着割れ目が多いが、大半は密着度高く、ハンマーの強打で分離しない。 割れ目挟在物は殆んど分布しない。
05	129.47			X						129.47~129.84m: CL 密着度の低いゆ着割れ目が多く分布する。 挟在物は殆んど分布しない。
130	129.84			X						●129.84~129.91m: 破砕帯(主せん断面129.84m) 129.84~129.85m: Hc-2 70°で上端直線的、下端は波打って連続。φ1~3m/m石英粒、φ2~3m/m岩片を10~20%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は緑灰(10G5/1)、厚さ2~5m/mで一部厚さ0.5m/mのフィルム状部分もある。
05	129.85			X						129.85~129.91: Hj 上端70°で波打って、下端60~70°で少し湾曲して連続。φ2~5m/mに細岩片化し、岩片間は粘土~砂状化する。粘土量は他のHjに比べ多い。全体的に「粘土質岩片状」を呈する。 色調はオリブ灰色をおびた灰白(7.5Y7/1)厚さ25~35m/m

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
128.05~128.78m: CH 堅硬。 128.05~129.00mにゆ着割れ目が開口割れ目化した80~90°割れ目が波打ちながら連続するが一部を除き片状化は認められない。
128.78m 33°割れ目に砂、φ2~3m/m細片化岩片を厚さ1~4m/mはさむ。
128.78~129.47m: CM 白い筋状のゆ着割れ目が多いが、大半は密着度高く、ハンマーの強打で分離しない。 割れ目挟在物は殆んど分布しない。
129.47~129.84m: CL 密着度の低いゆ着割れ目が多く分布する。 挟在物は殆んど分布しない。
●129.84~129.91m: 破砕帯(主せん断面129.84m)
129.84~129.85m: Hc-2 70°で上端直線的、下端は波打って連続。φ1~3m/m石英粒、φ2~3m/m岩片を10~20%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は緑灰(10G5/1)、厚さ2~5m/mで一部厚さ0.5m/mのフィルム状部分もある。
129.85~129.91: Hj 上端70°で波打って、下端60~70°で少し湾曲して連続。φ2~5m/mに細岩片化し、岩片間は粘土~砂状化する。粘土量は他のHjに比べ多い。全体的に「粘土質岩片状」を呈する。 色調はオリブ灰色をおびた灰白(7.5Y7/1)厚さ25~35m/m

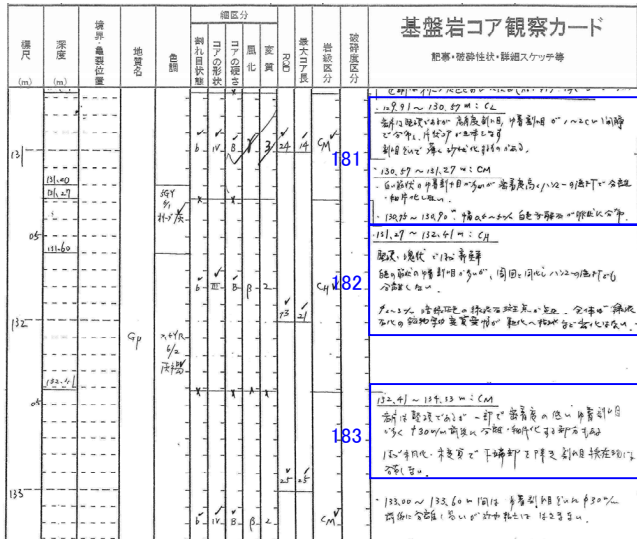
申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
174	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区分については、「岩級区分」欄で示しているため削除。</li> <li>硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
175	<ul style="list-style-type: none"> <li>砂や岩片を挟在するが、連続性に乏しく周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>
176	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区分については、「岩級区分」欄で示していることから削除。</li> <li>割れ目の密着状態、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
177~180	<ul style="list-style-type: none"> <li>カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。</li> <li>表現の見直し(粘土質岩片状→粘土質礫状)</li> <li>φ1~3mm石英粒、φ2~3mm岩片を10~20%含むとの記載に基づき、礫混じり粘土状と記載。</li> <li>粘土の累計幅については、最大値を記載。</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。</li> <li>主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。</li> <li>破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。</li> <li>境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>

# H27-B-3

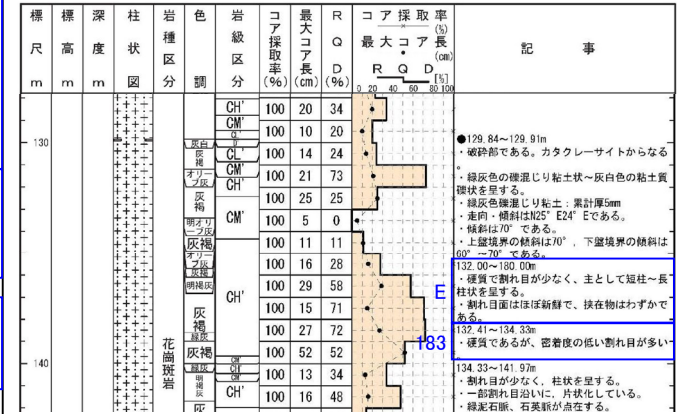
## コア観察カード (H27年8月)



## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
<p>129.91~130.57m: CL                      岩片は堅硬であるが高角度割れ目、ゆ着割れ目が1~2cm間隔で分布し片状コアが主体を示す。</p> <p>130.57~131.27m: CM                      白い筋状のゆ着割れ目が多いが密着度高くハンマーの強打で分離・細片化しない。</p> <p>130.75~130.90m 幅0.5~5m/m白色方解石が脈状に分布。</p> <p>131.27~132.41m: CH                      堅硬・塊状でほど新鮮。</p> <p>132.41~134.33m: CM                      岩片は堅硬であるが一部で密着度の低いゆ着割れ目が多くφ30m/前後に分離・細片化する部分もある。</p>

## 申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
181	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>・割れ目の密着状態、鉱物脈については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・129.91~130.57mの一部割れ目沿いで砂状化するが、周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。</li> </ul>
182	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>・割れ目の密着状態、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“コアの形状”欄、RQDや最大コア長の傾向を踏まえ、132.00~180.00mを短柱~長柱状と記載。</li> <li>・“コアの硬さ”欄に基づき硬質と記載。</li> <li>・記事No.183等に基づき、割れ目面はほぼ新鮮で挟在物はわずかであるとまとめ書き。</li> </ul>
183	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・割れ目の挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

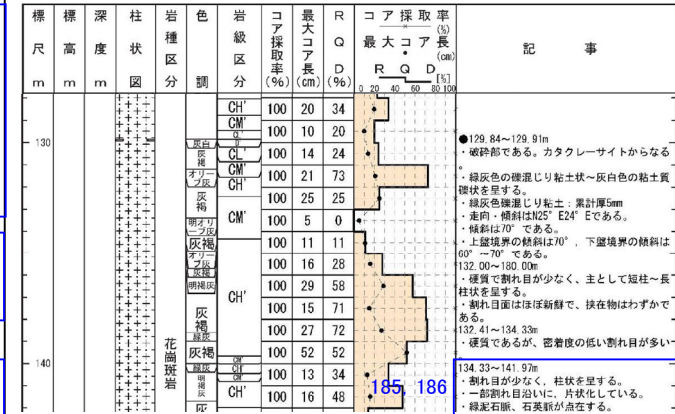
コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地層 位置	地層 名称	細区分				岩種 区分	色調	基盤岩コア観察カード	
				コアの 形状	割れ 目	変色	付着 物			観察 事項	備考
135	133.00								CH	133.00~133.60m 100% 割れ目粗さ約φ30m前後に分離し易いが砂や粘土ははさまない。 133.39~133.85m φ2~3m暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い、石基も淡緑化(明オリーブ灰)する。 区間全体が緑泥石化している。	
134	134.35								CH	134.35m 70~80°に暗緑灰色の厚さ1~2m緑泥石粘土とその上盤に厚さ15mのφ5~10m/m岩片をはさむ。	
135	134.33								CH	134.33~139.66m: CH 堅硬・塊状で未風化・未変質。 ゆ着割れ目は少量分布するが周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。 134.56~134.70mは緑泥石化により淡緑色化(オリーブ灰)する。	
136	134.85								CH	134.85m以深では処々にφ10m/m前後で橙色の長石が晶出する。	
136	135.76								CH	135.76m 80° 割れ目は鏡肌もち交差する割れ目の一部を切っている(sjと評価される)。 136.09m・60°, 136.33m・65°, 136.56m・60° で前2者は厚さ1~2m/mの緑泥石脈、後者は石英脈が密着して分布。粘土化や砂状化は伴わない。	

記事内容
133.00~133.60m間はゆ着割れ目ぞいにφ30m/m前後に分離し易いが砂や粘土ははさまない。 133.39~133.85m φ2~3m暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い、石基も淡緑化(明オリーブ灰)する。 区間全体が緑泥石化している。
134.35m 70~80°に暗緑灰色の厚さ1~2m緑泥石粘土とその上盤に厚さ15m/mのφ5~10m/m岩片をはさむ。
134.33~139.66m: CH 堅硬・塊状で未風化・未変質。 ゆ着割れ目は少量分布するが周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。 134.56~134.70mは緑泥石化により淡緑色化(オリーブ灰)する。
134.85m以深では処々にφ10m/m前後で橙色の長石が晶出する。
135.76m 80° 割れ目は鏡肌もち交差する割れ目の一部を切っている(sjと評価される)。 136.09m・60°, 136.33m・65°, 136.56m・60° で前2者は厚さ1~2m/mの緑泥石脈、後者は石英脈が密着して分布。粘土化や砂状化は伴わない。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
184	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の密着状態、挟在物の有無、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> <li>134.35mに岩片を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>
185, 186	<ul style="list-style-type: none"> <li>“コアの形状”欄に基づき、下端深度を141.97m、柱状と記載。</li> <li>記事No.191, 192に基づき、一部割れ目沿いに片状と記載。</li> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>割れ目の密着状態、変色については、補足的なものであるため削除。</li> <li>一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。</li> <li>135.76mで割れ目を切っているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>

# H27-B-3

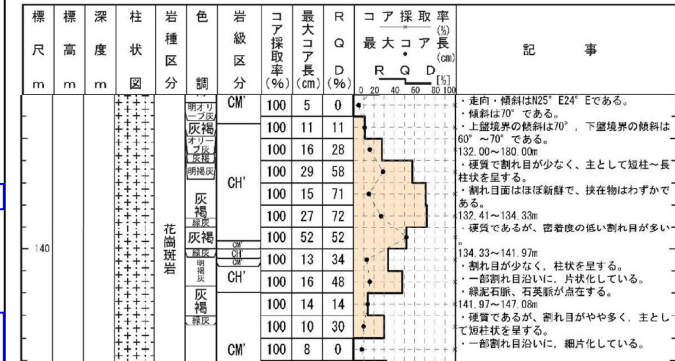
## コア観察カード (H27年8月)

層位 (m)	層厚 (m)	地質 記号	地質 説明	割れ目の 性状	割れ目の 性状	割れ目の 性状	割れ目の 性状	割れ目の 性状	割れ目の 性状	割れ目の 性状	細区分		基盤岩コア観察カード 地質・裂隙性状・顕微鏡スケッチ等
											岩級	岩級区分	
137	0.5	GP											137.52~137.62m 晶洞中に石英、橙色の長石、緑泥石などが晶出している。 緑泥石が晶出している。
138	0.5												138.35m, 138.50m ゆ着割れ目ぞいに開口割れ目化している。
139	0.5												139.02~139.21m 緑泥石化で緑灰色化する。
140	0.5												139.37m 70° 厚さ2~3m/m脈に緑泥石と石英が共生して分布。φ0.1m/mと 微細な黄鉄鉱も点在する。 139.66~139.96m: CM 割れ目がやよくなる。 挟在物は分布しない。
141	0.5												139.96~140.39m: CH

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
137.52~137.62m 晶洞中に石英、橙色の長石、緑泥石などが晶出している。
138.35m, 138.50m ゆ着割れ目ぞいに開口割れ目化している。
139.02~139.21m 緑泥石化で緑灰色化する。
139.37m 70° 厚さ2~3m/m脈に緑泥石と石英が共生して分布。φ0.1m/mと微細な黄鉄鉱も点在する。 139.66~139.96m: CM 割れ目がやよくなる。 挟在物は分布しない。
139.96~140.39m: CH

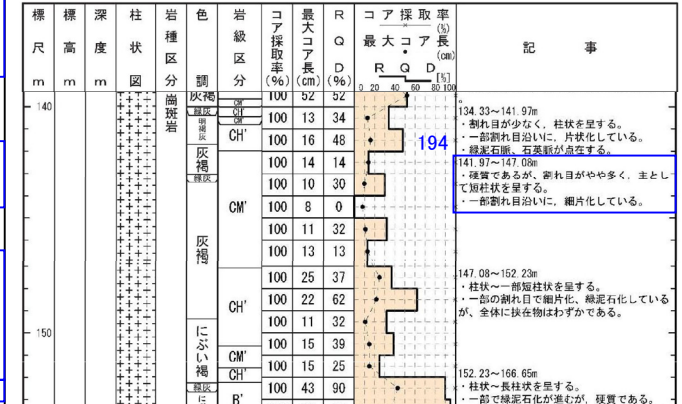
## 申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
187	・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
188	・割れ目の密着状態・開口状況、鉱物の晶出、変色については、補足的なものであるため削除。
189	・鉱物脈、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
190	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
191	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。

標尺 (m)	深度 (m)	地層番号	地層名	色	割れ目性状	開口性状	硬質	短柱状	岩級区分	最大コア長 (cm)	最大コア径 (cm)	最大コア率 (%)	記事
141.30	140.39								CH	100	52	52	140.39~140.61m CM 70° 割れ目ぞいに一部片状化する。砂や粘土ははさまない。
140.61	141.97							CH	100	16	48	140.61~141.97m CH 堅硬・塊状 一部でゆ着割れ目が多いが密着度が高く周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。	
141.40	142.00							CH	100	14	14		141.40~142.00m φ20m/m前後のまだら模様状に緑泥石化した淡緑灰色部が分布する。 141.70m付近で色調が少し変化する。
141.70	142.32							CH	100	10	30	141.97~147.08m CM やゝ割れ目は多いが岩片は堅硬。 白色の筋状を呈するゆ着割れ目が多いが、多くが密着度が高い。 一部では開口割れ目化している。	
142.32	142.43							CH	100	8	0		142.32~142.43m 割れ目が交差しφ20~50m/m程度に岩片化しているが砂や粘土ははさまない。
142.43	142.70							CH	100	11	32	142.70~142.76m 緑泥石化で淡緑灰色を呈する。	
142.70	142.76							CH	100	25	37		143.48~144.50m φ3~5m/mの橙色のかり長石斑晶が上下位よりも多く晶出。かり長石の一部はゆ着割れ目ぞいに50~60°の配列性を示す部分もある。 ゆ着割れ目形成時に(流動を伴って)再配列した可能性がある。
143.48	144.50							CH	100	22	62	143.80~144.00m 割れ目間隔20~70m/mで45° ゆ着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。	
143.80	144.00							CH	100	11	32		144.61~144.68m 40~55° のゆ着割れ目が密集する。 多くが開口化し易い。
144.61	144.68							CH	100	15	39	147.08~152.23m ・柱状~一部短柱状を呈する。 ・一部の割れ目で細片化、緑泥石化しているが、全体に挟在物はわずかである。	
147.08	152.23							CH	100	15	25		152.23~166.65m ・柱状~長柱状を呈する。 ・一般で緑泥石化が進むが、硬質である。
152.23	166.65							CH	100	43	90	141.97~147.08m ・硬質であるが、割れ目がややく、主として短柱状を呈する。 ・一部割れ目ぞいに、細片化している。	
141.97	147.08							CH	100	11	32		147.08~152.23m ・柱状~一部短柱状を呈する。 ・一部の割れ目で細片化、緑泥石化しているが、全体に挟在物はわずかである。
147.08	152.23							CH	100	15	39	152.23~166.65m ・柱状~長柱状を呈する。 ・一般で緑泥石化が進むが、硬質である。	
152.23	166.65							CH	100	15	25		147.08~152.23m ・柱状~一部短柱状を呈する。 ・一部の割れ目で細片化、緑泥石化しているが、全体に挟在物はわずかである。
147.08	152.23							CH	100	15	25	152.23~166.65m ・柱状~長柱状を呈する。 ・一般で緑泥石化が進むが、硬質である。	
152.23	166.65							CH	100	43	90		147.08~152.23m ・柱状~一部短柱状を呈する。 ・一部の割れ目で細片化、緑泥石化しているが、全体に挟在物はわずかである。

記事内容
140.39 65° 割れ目ぞいの一部が細片化するが、軟化など劣化はない。 140.39~140.61m: CM 70° 割れ目ぞいに一部片状化する。砂や粘土ははさまない。
140.61~141.97m: CH 堅硬・塊状 一部でゆ着割れ目が多いが密着度が高く周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。
141.40~142.00m φ20m/m前後のまだら模様状に緑泥石化した淡緑灰色部が分布する。 141.70m付近で色調が少し変化する。
141.97~147.08m: CM やゝ割れ目は多いが岩片は堅硬。 白色の筋状を呈するゆ着割れ目が多いが、多くが密着度が高い。 一部では開口割れ目化している。
142.32~142.43m 割れ目が交差しφ20~50m/m程度に岩片化しているが砂や粘土ははさまない。
142.70~142.76m 緑泥石化で淡緑灰色を呈する。
143.48~144.50m φ3~5m/mの橙色のかり長石斑晶が上下位よりも多く晶出。かり長石の一部はゆ着割れ目ぞいに50~60°の配列性を示す部分もある。 ゆ着割れ目形成時に(流動を伴って)再配列した可能性がある。
143.80~144.00m 割れ目間隔20~70m/mで45° ゆ着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。
144.61~144.68m 40~55° のゆ着割れ目が密集する。 多くが開口化し易い。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
192	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区分については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・割れ目ぞいの細片化については、記事No.185, 186でまとめ書きしていることから削除。</li> <li>・挟在物の有無、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> </ul>
193	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉱物の晶出、色調については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
194	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質、短柱状と記載。</li> <li>・表現の見直し(岩片化→細片状を呈する)</li> <li>・割れ目の密着状態・開口状況、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
195	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉱物の晶出、色調については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
196	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。</li> <li>・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
197	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示していることから削除。</li> <li>・割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
198	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。</li> <li>・割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

# H27-B-3

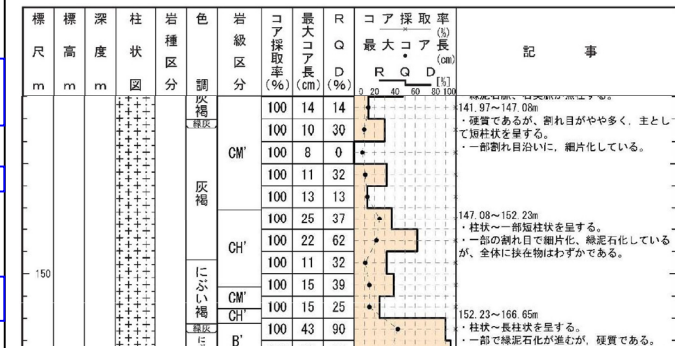
## コア観察カード (H27年8月)

標尺 1/25 (m)	深度 (m)	境界・地層区分	岩種	色	細区分			最大径 (mm)	観察区分	観察区分	基盤岩コア観察カード	
					割れ目状態	コアの長さ (cm)	風化				記事・硬軟性状・詳細スケッチ等	
											199	145.37m 50° 割れ目ぞいに厚さ15m/mがφ2~10m/mに細片化するが岩片は硬質。 砂や粘土ははさまない。
											200	145.88m 70° 巾着割れ目ぞいに厚さ約10m/mで緑泥石化し緑灰色を呈する。
											201	146.56~147.08m 60~70° の巾着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。各割れ目面はほど未風化・新鮮で挟在物は分布しない。

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
199	145.37m 50° 割れ目ぞいに厚さ15m/mがφ2~10m/mに細片化するが岩片は硬質。 砂や粘土ははさまない。
200	145.88m 70° 巾着割れ目ぞいに厚さ約10m/mで緑泥石化し緑灰色を呈する。
201	146.56~147.08m 60~70° の巾着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。各割れ目面はほど未風化・新鮮で挟在物は分布しない。

## 申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
199	・割れ目沿いに細片化するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
200	・割れ目の密着状態、割れ目沿いの鉱物の晶出、変色については、補足的なものであるため削除。
201	・割れ目の密着状態・開口状況、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。

# H27-B-3

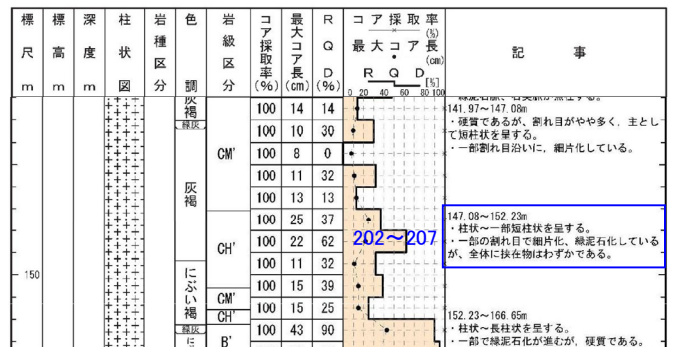
## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	採掘位置 (緯度・経度)	心取法	岩種	種別						採取深度 (m)	採取深度 区分	基盤岩コア観察カード 肥後・肥後陸地・細川スケッチ等
					割れ目 方向	割れ目 長さ	割れ目 幅	割れ目 密度	割れ目 形状	割れ目 状態			
147.08	147.08		Gp								202	147.08~150.59m: CH 堅硬・塊状 開口割れ目は殆んどがゆ着割れ目が開口したもの。 残留しているゆ着割れ目は周囲と同化し密着度が高くハンマーの強打でも分離しない。 各割れ目面にはほぼ挟在物は分布せず、未風化で新鮮。	
148.78	148.78										203	148.78m 65° 割れ目面に厚さ1m/m緑泥石が固結粘土フィルム状に付着する。	
149.20	149.20										204	149.20~149.36m やゝ割れ目が多いが劣化は伴わない。	
150.04	150.04										205	150.04~150.59m 50~80°・厚0.5m/m以下主体の緑泥石細脈が多く分布。大半は周囲と同化し開口割れ目化していない。	
150.41	150.41										206	150.41m 緑泥石脈中に厚さ10m/mの石英をレンズ状に伴っている。	
150.59	150.59										207	150.59~151.57m: CM 20~40° と70~80° 割れ目が交差しやゝ割れ目が多くなっている。  151.21m 85° 割れ目の一部で厚さ2m/mのφ2m/m細片化部はさむ。  151.50~151.52m 石英と暗褐色鉱物が共生して分布。 151.57~152.23m: CH 堅硬・塊状 割れ目やゆ着割れ目は幅0.5m/m程度に緑泥石化するが、ゆ着割れ目の大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離・細片化しない。 一部は開口化している。粘土や砂ははさまない。 151.47~151.52m 緑泥石化と珪化が進み硬化している。	

記事内容
147.08~150.59m: CH 堅硬・塊状 開口割れ目は殆んどがゆ着割れ目が開口したもの。 残留しているゆ着割れ目は周囲と同化し密着度が高くハンマーの強打でも分離しない。 各割れ目面にはほぼ挟在物は分布せず、未風化で新鮮。
148.78m 65° 割れ目面に厚さ1m/m緑泥石が固結粘土フィルム状に付着する。
149.20~149.36m やゝ割れ目が多いが劣化は伴わない。
150.04~150.59m 50~80°・厚0.5m/m以下主体の緑泥石細脈が多く分布。大半は周囲と同化し開口割れ目化していない。
150.41m 緑泥石脈中に厚さ10m/mの石英をレンズ状に伴っている。
150.59~151.57m: CM 20~40° と70~80° 割れ目が交差しやゝ割れ目が多くなっている。
151.21m 85° 割れ目の一部で厚さ2m/mのφ2m/m細片化部はさむ。
151.50~151.52m 石英と暗褐色鉱物が共生して分布。 151.57~152.23m: CH 堅硬・塊状 割れ目やゆ着割れ目は幅0.5m/m程度に緑泥石化するが、ゆ着割れ目の大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離・細片化しない。 一部は開口化している。粘土や砂ははさまない。 151.47~151.52m 緑泥石化と珪化が進み硬化している。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
202~207	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の発達程度について、“コアの形状”欄に基づき、柱状~一部短柱状と記載。</li> <li>割れ目沿いの細片化についてまとめ書き。</li> <li>割れ目沿いの緑泥石化についてまとめ書き。</li> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> <li>割れ目の密着状態・開口状況、石英の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> <li>148.78mに粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>

# H27-B-3

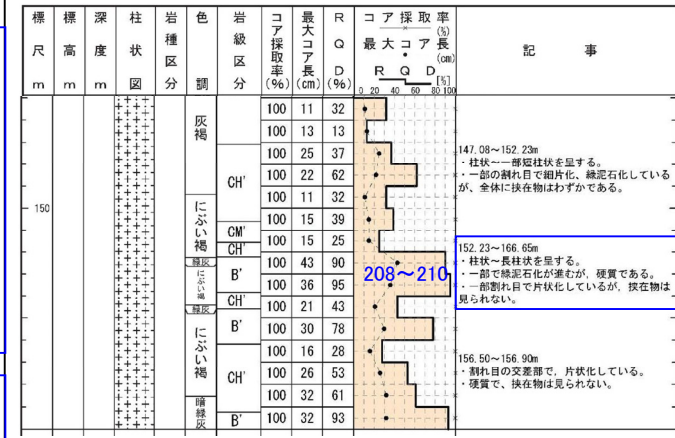
## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	採り位置	岩種	色調	岩級区分	細区分		備考
						緑泥石化	変質	
15.5	152.23	152.23						
15.5	152.24	152.24						
15.5	152.25	152.25						
15.5	153.20	153.20						
15.5	153.25	153.25						
15.5	153.26	153.26						
15.5	153.85	153.85						
15.5	154.42	154.42						
15.5	154.60	154.60						
15.5	155.60	155.60						

記事内容
<p>152.23～153.85m:B                      堅硬、塊状で割れ目はわずく。割れ目挟在物は分布しない。                      割れ目やゆ着割れ目の一部は割れ目ぞいに緑泥石化するが硬質。                      152.50～152.67mは上下端を厚さ10～20m/mの石英脈に囲まれた「プロトカタクレーサイト」であるが、角礫と基質は同化し硬化している。</p>
<p>153.20m付近にφ10m/mと大型・橙色のかり長石斑晶が点在。                      153.25～153.60m 60～80°と高角な白色筋状のゆ着割れ目が数本分布するが密着度高く開口化しない。</p>
<p>153.85～154.60m:CH                      堅硬、塊状</p>
<p>154.42～154.60mは緑泥石化が進むが硬質。                      上端では割れ目が交差し片状化するが微細な黄鉄鉱を伴う以外は粘土、砂などはさまない。</p>
<p>154.60～156.18m:B                      堅硬、塊状で割れ目少ない。                      155.25以深で60～90°の高角度白色筋状のゆ着割れ目が多いが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。</p>



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
208～210	<ul style="list-style-type: none"> <li>“コアの形状”欄に基づき、下端深度を166.65m、柱状～長柱状と記載。</li> <li>“コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。</li> <li>緑泥石化、割れ目沿いの片状化、挟在物の有無についてまとめ書き。</li> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>152.50～152.67mにプロトカタクレーサイトとの記載があるが、岩盤の劣化が認められず、区間内の岩片やそれを取り巻く石英脈に系統的な配列も認められないことから、破碎部ではなく熱水の注入により生じたものと判断し削除。</li> <li>一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。</li> <li>割れ目の密着状態・開口状況、黄鉄鉱の晶出、変色、割れ目の傾斜、石英の挟在については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>



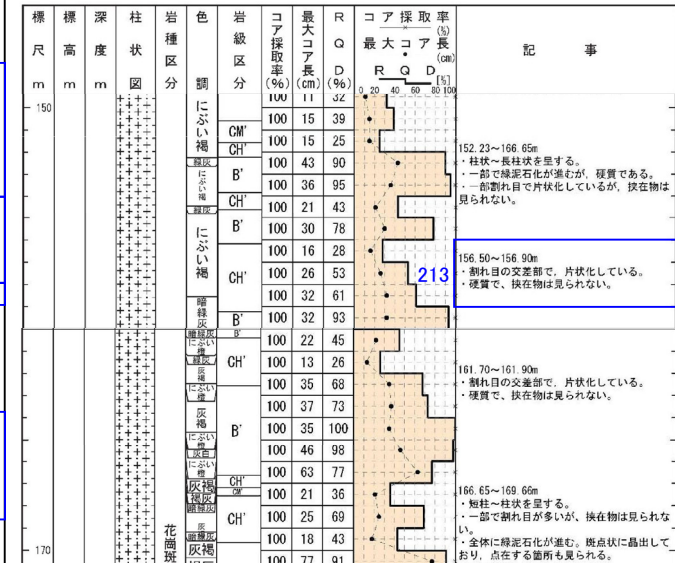
コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 /± (m)	深度 (m)	境界 鳥居位置	地質名	色調	細区分				岩級区分	岩種区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目の性状	割れ目の性状	割れ目の性状	割れ目の性状			
156	156.25									211 156.25~156.40m 一部に緑泥石化し、30m/mの斑状に緑灰色化する。軟化は伴わない。 156.40~156.14m 白色筋状の迎着割れ目の一部がはがれかかっているがよく密着している。	
										212 156.18~159.24m:CH 堅硬、塊状。一部に長さ20cm以上の柱状コアも混えるが長さ10~20cm(Ⅲ)が主体。 割れ目や迎着割れ目の一部は緑泥石化するがよく密着している。	
										213 156.50~156.90m 割れ目が交差し一部で片状化するが挟在物は分布しない。	
										214 157.00m 以深は20~40° 割れ目が主体。 157.35~157.89m わずかながら石基も緑泥石化し緑灰色を帯びる。 157.83~157.89m 30° 程度でφ2~3m/mの暗緑灰色の緑泥石が弱い配列性をもって点在する。 158.20~158.30m φ10m/m前後の大型なカリ長石が点在。	
										215 158.54mと158.62mに70~75° 厚1~2m/mで石英を伴って緑泥石脈が分布。よく密着し分離しない。 158.54m以深は石基も含め緑泥石化が進み暗緑灰色を呈する。軟化は伴わず堅硬である。 159.24~160.40m:B 堅硬、塊状で割れ目が少ない。 緑泥石化により暗緑色や白色筋状の迎着割れ目を多く含むが堅硬で密着度高く、ハンマーの強打でも分離しない。 割れ目挟在物も分布しない。 全体に緑泥石化が進み暗緑灰色が主体であるが、緑泥石化の弱い部分は母岩の橙色が残留、全体的には色調がまだら模様を呈する。	

記事内容
155.25m 70~80° 割れ目で交差する一部の迎着割れ目が切られている(変位不明)。 156.77~156.80m 一部で緑泥石化しφ30m/mの斑状に緑灰色化する。軟化は伴わない。 156.00~156.14m 白色筋状の迎着割れ目の一部がはがれかかっているがよく密着している。
156.18~159.24m:CH 堅硬、塊状。一部に長さ20cm以上の柱状コアも混えるが長さ10~20cm(Ⅲ)が主体。 割れ目や迎着割れ目の一部は緑泥石化するがよく密着している。
156.50~156.90m 割れ目が交差し一部で片状化するが挟在物は分布しない。
157.00m 以深は20~40° 割れ目が主体。 157.35~157.89m わずかながら石基も緑泥石化し緑灰色を帯びる。 157.83~157.89m 30° 程度でφ2~3m/mの暗緑灰色の緑泥石が弱い配列性をもって点在する。 158.20~158.30m φ10m/m前後の大型なカリ長石が点在。
158.54mと158.62mに70~75° 厚1~2m/mで石英を伴って緑泥石脈が分布。よく密着し分離しない。 158.54m以深は石基も含め緑泥石化が進み暗緑灰色を呈する。軟化は伴わず堅硬である。 159.24~160.40m:B 堅硬、塊状で割れ目が少ない。 緑泥石化により暗緑色や白色筋状の迎着割れ目を多く含むが堅硬で密着度高く、ハンマーの強打でも分離しない。 割れ目挟在物も分布しない。 全体に緑泥石化が進み暗緑灰色が主体であるが、緑泥石化の弱い部分は母岩の橙色が残留、全体的には色調がまだら模様を呈する。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
211	<ul style="list-style-type: none"> <li>155.25mで割れ目が切られているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>緑泥石化については、記事No.208~210でまとめ書きしていることから削除。</li> <li>割れ目の密着の程度については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
212	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>硬軟、割れ目の発達程度、緑泥石化、割れ目の密着状態については、記事No. 208~210でまとめ書きしていることから削除。</li> </ul>
213	<ul style="list-style-type: none"> <li>変更なし</li> </ul>
214	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の傾斜、色調については、補足的なものであるため削除。</li> <li>緑泥石化については、記事No. 208~210でまとめ書きしていることから削除。</li> <li>一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。</li> </ul>
215	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑泥石化、割れ目の密着状態、硬軟、割れ目の発達程度、挟在物の有無については、記事No. 208~210でまとめ書きしていることから削除。</li> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>石英の晶出、色調については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

# H27-B-3

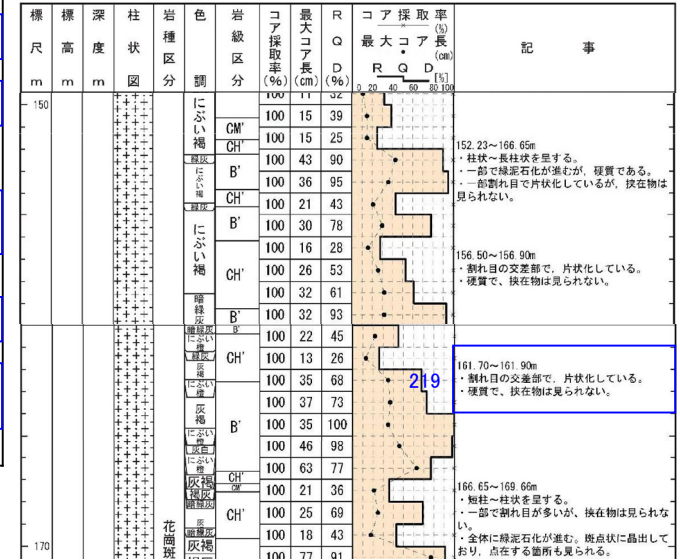
## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 160 (m)	深度 (m)	地質名	色調	細区分				R	Q	D	最大コア長 (cm)	R	Q	D	最大コア長 (cm)	R	Q	D	
				割れ目状態	割れ目の種類	風化	変質												
	159.45																		
	160.40																		
	161.10																		
	161.70																		
	162.12																		
	162.46																		
	166.65																		

記事内容
216 159.45m 60° 割れ目が交差する65° ゆ着割れ目を切っている。 (見掛け変位量2m/m左ズレ)
217 160.40~162.57m: CH 堅硬、塊状。上下位に比べやゝ割れ目が多い。割れ目挟在物は分布しない。
218 161.10~161.69m φ5m/m前後と大型な暗緑色・緑泥石を斑点状に含む。このうち、上端側の161.10~161.24mは石基も含む全体で緑泥石化が進み、緑灰色を呈する。
219 161.70~161.90m 割れ目交差部の一部で片状化するが岩片は堅硬で、粘土や砂をはさまない。
220 162.12~162.18m φ10m/m前後と大型な橙色のカリ長石が点在する。 162.46~162.57m 80~90° のゆ着割れ目が5~20m/m間隔で平行に分布。 密着度が低く、ハンマーの強打で分離する。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
216	・159.45mで割れ目を切っているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
217	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟、割れ目の発達程度、挟在物の有無については、記事No. 208~210でまとめ書きしていることから削除。
218	・緑泥石化については、記事No. 208~210でまとめ書きしていることから削除。 ・色調については、補足的なものであるため削除。
219	・表現の見直し(粘土や砂をはさまない→挟在物はみられない)
220	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・割れ目の傾斜、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。

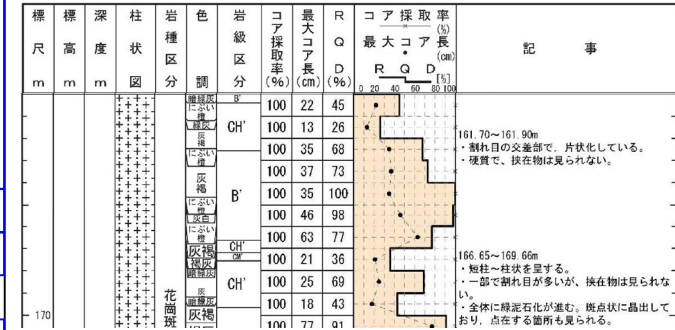
コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	層序 位置	地質 心	細区分				最大出露 [R] [Q]	岩級区分	採取区分	記事内容
				割れ目 の形状	割れ目 の長さ	割れ目 の密度	割れ目 の方向				
163	162.57 162.74									221 162.57~166.65m: B 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コア主体。 一部に厚1~2m/mの白色筋状のゆ着割れ目が発達するが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。 ゆ着割れ目には石英を脈状にはさむものも多い。 橙色のカリ長石が濃集する部分も含み、この部分では色調が橙色系(にぶい橙色など)を呈している。 緑泥石化は割れ目やゆ着割れ目ぞいでは殆んど分布せずφ2~5m/mの斑点状などとして晶出している。	
0.5										222 163.50~163.60m 高角度割れ目が交差し、一部で片状化するが岩片は堅硬で、砂や粘土ははさまない。面の一部に黄鉄鉱が晶出している。	
164										223 164.00~164.30m φ10m/mと大型・橙色のカリ長石と同径・緑灰色の緑泥石が混在する。	
0.5										224 164.50m φ50m/m緑泥石晶洞。石英などの2次鉱物を伴っている。	
164.5	164.94									225 164.94m 70°密着割れ目上盤側に厚さ20m/mの石英脈が緑泥石を伴って分布。上下端境界は堅硬。	

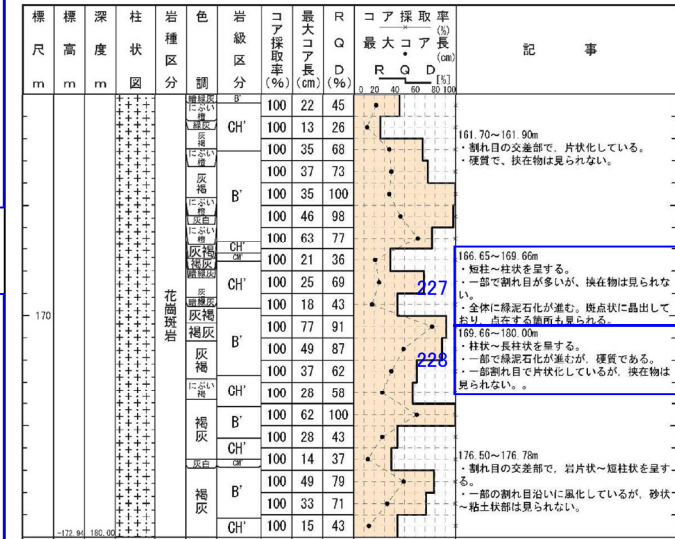
記事内容
162.57~166.65m: B 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コア主体。 一部に厚1~2m/mの白色筋状のゆ着割れ目が発達するが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。 ゆ着割れ目には石英を脈状にはさむものも多い。 橙色のカリ長石が濃集する部分も含み、この部分では色調が橙色系(にぶい橙色など)を呈している。 緑泥石化は割れ目やゆ着割れ目ぞいでは殆んど分布せずφ2~5m/mの斑点状などとして晶出している。
163.50~163.60m 高角度割れ目が交差し、一部で片状化するが岩片は堅硬で、砂や粘土ははさまない。面の一部に黄鉄鉱が晶出している。
164.00~164.30m φ10m/mと大型・橙色のカリ長石と同径・緑灰色の緑泥石が混在する。
164.50m φ50m/m緑泥石晶洞。石英などの2次鉱物を伴っている。
164.94m 70°密着割れ目上盤側に厚さ20m/mの石英脈が緑泥石を伴って分布。上下端境界は堅硬。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
221	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>・硬軟、割れ目の発達程度、緑泥石化については、記事No. 208~210でまとめ書きしていることから削除。</li> <li>・割れ目の密着状態、割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。</li> </ul>
222	<ul style="list-style-type: none"> <li>・片状化、硬軟、挟在物の有無については、記事No. 208~210でまとめ書きしていることから削除。</li> <li>・割れ目の傾斜、黄鉄鉱の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
223	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。</li> </ul>
224	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
225	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

標尺 165 (m)	深度 (m)	地層 番号	地層 名称	細区分										備考		
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
															226	<p>164.95~165.89m 橙色のカリ長石の含有が上下位に比べ多くなり、色調も橙色系(にぶい橙色)を呈する。</p> <p>165.32m 70° 割れ目は165.32mでφ8m/mの橙色カリ長石を切断している。また交差する割れ目の一部も切っている(見掛け変位量2~5m/左ズレ)。本割れ目には鏡肌も認められる。</p> <p>165.80~166.10m φ10~20m/mの石英が多く晶出している。</p> <p>一部は地形の結晶型を示すため熱水変質で緑泥石と共に晶出した2次石英である。</p> <p>166.44~166.47m φ10m/m斑状~長20~30m/m幅5m/mのレンズ状で石英が晶出。</p>
															227	<p>166.65~167.21m:CH 一部でやゝ割れ目が多いが、岩片は堅硬で、粘土や砂などの挟在物は分布しない。</p> <p>167.00m以深では緑泥石化が進み、暗緑灰色を呈する。</p> <p>167.21~167.55m:CM 白色筋状のゆ着割れ目が交差し岩片状に砕けているが岩片は堅硬で挟在物は分布しない。</p> <p>167.55~169.66m:CH 堅硬、塊状で、コア長20cm以上の長柱状コアも含むが、10~20cmの柱状コア主体。</p> <p>白色筋状のゆ着割れ目も含んでいるが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。</p> <p>全体に緑泥石化し、φ2~3m/m暗緑灰色の斑点状に晶出して点在する。割れ目やゆ着割れ目ぞいに分布するものは少ない。緑泥石化が強い部分は色調が暗緑灰色を呈する。</p> <p>割れ目には粘土、砂などの挟在物は分布しないが、一部で緑泥石化や黄鉄鉱晶出部が認められる。</p> <p>169.19~169.41m 緑泥石化が進み暗緑灰色化する。</p> <p>軟化は伴わず堅硬。</p> <p>169.50m以深、φ2~3m/mの緑泥石が斑点状に多く晶出。</p>
															228	<p>169.66~172.69m:B 堅硬、塊状で割れ目が少ない。</p> <p>一部に白色筋状のゆ着割れ目が分布するが密着度が高く、分離しない。</p>

記事内容
<p>164.95~165.89m 橙色のカリ長石の含有が上下位に比べ多くなり、色調も橙色系(にぶい橙色)を呈する。</p> <p>165.32m 70° 割れ目は165.32mでφ8m/mの橙色カリ長石を切断している。また交差する割れ目の一部も切っている(見掛け変位量2~5m/左ズレ)。本割れ目には鏡肌も認められる。</p> <p>165.80~166.10m φ10~20m/mの石英が多く晶出している。</p> <p>一部は地形の結晶型を示すため熱水変質で緑泥石と共に晶出した2次石英である。</p> <p>166.44~166.47m φ10m/m斑状~長20~30m/m幅5m/mのレンズ状で石英が晶出。</p>
<p>166.65~167.21m:CH 一部でやゝ割れ目が多いが、岩片は堅硬で、粘土や砂などの挟在物は分布しない。</p> <p>167.00m以深では緑泥石化が進み、暗緑灰色を呈する。</p> <p>167.21~167.55m:CM 白色筋状のゆ着割れ目が交差し岩片状に砕けているが岩片は堅硬で挟在物は分布しない。</p> <p>167.55~169.66m:CH 堅硬、塊状で、コア長20cm以上の長柱状コアも含むが、10~20cmの柱状コア主体。</p> <p>白色筋状のゆ着割れ目も含んでいるが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。</p> <p>全体に緑泥石化し、φ2~3m/m暗緑灰色の斑点状に晶出して点在する。割れ目やゆ着割れ目ぞいに分布するものは少ない。緑泥石化が強い部分は色調が暗緑灰色を呈する。</p> <p>割れ目には粘土、砂などの挟在物は分布しないが、一部で緑泥石化や黄鉄鉱晶出部が認められる。</p> <p>169.19~169.41m 緑泥石化が進み暗緑灰色化する。</p> <p>軟化は伴わず堅硬。</p> <p>169.50m以深、φ2~3m/mの緑泥石が斑点状に多く晶出。</p>
<p>169.66~172.69m:B 堅硬、塊状で割れ目が少ない。</p> <p>一部に白色筋状のゆ着割れ目が分布するが密着度が高く、分離しない。</p>



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
226	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。</li> <li>165.32mで割れ目の一部も切っているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
227	<ul style="list-style-type: none"> <li>“コアの形状”欄に基づき、短柱~柱状と記載。</li> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>色調、割れ目の密着状態、黄鉄鉱の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
228	<ul style="list-style-type: none"> <li>孔底までの割れ目の発達程度、硬軟をまとめ書き。</li> <li>“コアの形状”欄に基づき、柱状~長柱状と記載。</li> <li>“コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。</li> <li>記事No.230, No.232, No.238等に基づき、緑泥石化、割れ目沿いの片状化、挟在物の有無についてまとめ書き。</li> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

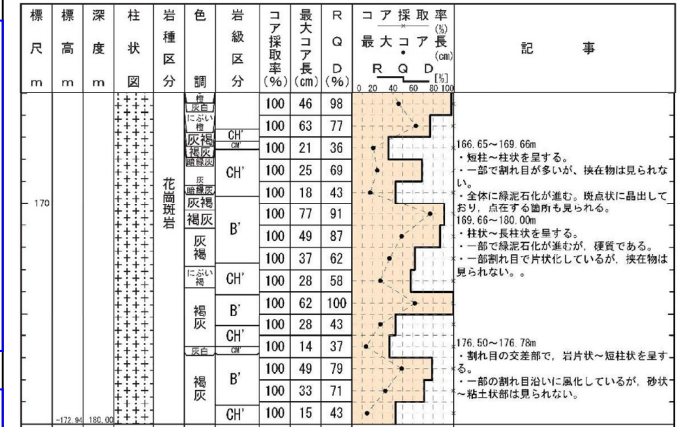
コア観察カード  
(H27年8月)

標尺 170 (m)	深度 (m)	境界 ・地層位置	地層名	色調	細区分				最大コア長 [cm]	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目の形状	割れ目の長さ	傾斜	密着			
	0.5										169.67~170.22m φ2~3mの暗緑灰色緑泥石が斑点状に多く晶出。 170.20~170.65m 60~70°のの着割れ目が数本分布するが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。
	171									229	171.00~171.08m φ10mの大型で橙色のカリ長石が晶出し点在する。 171.29m 割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。
	0.5										171.85m 割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。
	172									230	172.32~172.53m φ2~3m暗緑灰色の緑泥石が幅0.5~1m石英細脈を伴って、斑点状に晶出、点在する。

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
169.67~170.22m φ2~3mの暗緑灰色緑泥石が斑点状に多く晶出。
170.20~170.65m 60~70°のの着割れ目が数本分布するが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。
171.00~171.08m φ10mの大型で橙色のカリ長石が晶出し点在する。 171.29m 割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。
171.85m 割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。
172.32~172.53m φ2~3m暗緑灰色の緑泥石が幅0.5~1m石英細脈を伴って、斑点状に晶出、点在する。

申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
229	・緑泥石化、割れ目沿いの片状化については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。 ・割れ目の傾斜、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
230	・緑泥石化については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。 ・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。

# H27-B-3

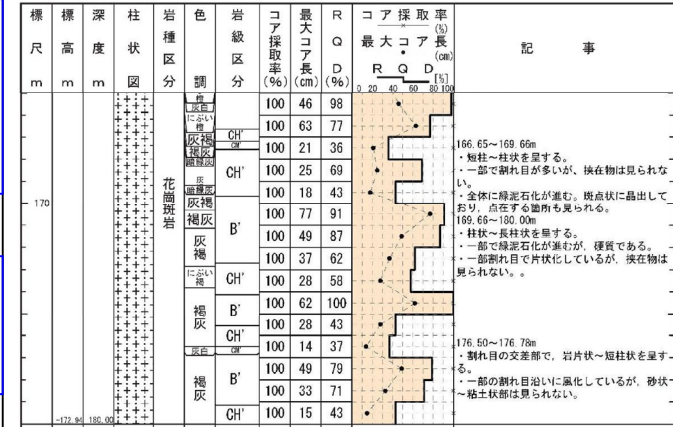
## コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	緯度・経度 位置	地質 心	細区分				最大コア 長さ (cm)	採取 区分	採取 区分	基盤岩コア観察カード 観察・観察性状・詳細スケッチ等
				割れ目 性状	コアの 性状	風化 程度	RD				
173	172.67									172.67~174.13m: CH 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コアも含むが10~20cmの柱状コア主体。 一部で緑泥石化し、割れ目やゆ着割れ目にそって細脈状~φ1~3m/mの斑点状に晶出している。割れ目面には砂や粘土ははさまない。細脈部には石英を伴うこともある。 173.66~176.73m 密着度の低いゆ着割れ目10~20m/m間隔で分布。ハンマーの強打で分離・細片化するが粘土や砂など挟在物は分布しない。 173.93m 43°割れ目はφ5m/mの橙色カリ長石を切っている。	
	172.26										
174	174.13									174.13~175.55m: B 堅硬、塊状で一部の割れ目交差部で区間長約10cm片状化するが、コア長20cm以上の長柱状コア主体。 一部に白色筋状のゆ着割れ目を含むが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。 上位側に比べ緑泥石化は弱くなる。	
	173.83										
175											

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
172.69~174.13m: CH 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コアも含むが10~20cmの柱状コア主体。 一部で緑泥石化し、割れ目やゆ着割れ目にそって細脈状~φ1~3m/mの斑点状に晶出している。割れ目面には砂や粘土ははさまない。細脈部には石英を伴うこともある。 173.66~176.73m 密着度の低いゆ着割れ目10~20m/m間隔で分布。ハンマーの強打で分離・細片化するが粘土や砂など挟在物は分布しない。 173.93m 43°割れ目はφ5m/mの橙色カリ長石を切っている。
174.13~175.55m: B 堅硬、塊状で一部の割れ目交差部で区間長約10cm片状化するが、コア長20cm以上の長柱状コア主体。 一部に白色筋状のゆ着割れ目を含むが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。 上位側に比べ緑泥石化は弱くなる。

## 申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
231	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・硬軟、割れ目の発達程度、緑泥石化、挟在物の有無については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。</li> <li>・割れ目の密着状態、石英の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・173.93mでカリ長石を切っているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>
232	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・硬軟、割れ目の発達程度、緑泥石化については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。</li> <li>・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

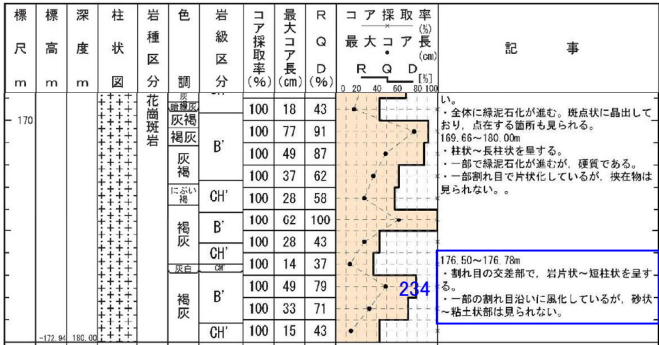
# H27-B-3 コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	柱状図	色調	岩種区分	岩級区分	最大コア長 (cm)	コア採取率 (%)	記事内容	
								記事No.	記事内容
176.15	176.22			B'	233	175.15~175.22m 割れ目が交差し片状化するが、岩片は硬質で割れ目面には挟雑物は分布しない。 175.55~176.50m: CH 堅硬、上下位に比べや割れ目が多いがコア長10cm~20cm(Ⅲ)が主体。ゆる着割れ目も含むが大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離しない。 175.45~175.71mは片状化するがコアチューブ引上げ時に片状化した可能性が高い。岩片は堅硬で挟雑物は分布しない。 面の一部は赤褐色化し、断片的に鏡肌も認められる。 赤褐色部は褐鉄鉱である可能性がある。			
176.50	176.60			C234	234	175.71~176.78m: CM 割れ目が交差し短柱状~一部岩片状を呈する。 175.59~175.62mは30° 割れ目ぞいに風化(γ)、軟化(D)、砂状~粘土状部ははさまない。			
176.78	179.15			B	235	176.78~179.15m: B 堅硬、塊状でコア長20cm以上の棒状コア主体。 一部に含まれるゆる着割れ目も密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 上位に比べ緑泥石化が進み、φ2~5m/暗緑灰色斑点状~厚さ0.5m/細脈状で分布する。細脈状のものは大半が周囲とよく密着し、開口化していない。			
177.65	177.83			B'	236	177.65m 35° 厚さ2~3m/mの石英脈が分布。周囲と同化している。			
177.83	178.27			B'	237	177.83~178.27m 間にはφ5~10m/mと大型な橙色のカリ長石が晶出・点在する。			
178.31	178.39			B'	238	178.31~178.39m 上端75°, 下端70° 割れ目に囲まれ厚さ25m/m、φ5~10m/mに細片化している。厚さは25m/mでごく薄く砂状化する部分がある。上端面には緑泥石がフィルム状に付着している。			
178.45	180.00			B'	239	178.45m以深にはゆる着割れ目が多いが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 179.15~180.00m: CH 179.37~179.68m間の一部は割れ目交差部で片状化するが、岩片は堅硬で面は未風化・未変質で挟雑物も分布しない。 一部でわずかに緑泥石がフィルム状に付着する程度。 ゆる着割れ目の多くはすでに開口割れ目化している。			

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
175.15~175.22m 割れ目が交差し片状化するが、岩片は硬質で割れ目面には挟雑物は分布しない。 175.55~176.50m: CH 堅硬、上下位に比べや割れ目が多いがコア長10cm~20cm(Ⅲ)が主体。ゆる着割れ目も含むが大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離しない。 175.45~175.71mは片状化するがコアチューブ引上げ時に片状化した可能性が高い。岩片は堅硬で挟雑物は分布しない。 面の一部は赤褐色化し、断片的に鏡肌も認められる。 赤褐色部は褐鉄鉱である可能性がある。
175.71~176.78m: CM 割れ目が交差し短柱状~一部岩片状を呈する。 175.59~175.62mは30° 割れ目ぞいに風化(γ)、軟化(D)、砂状~粘土状部ははさまない。
176.78~179.15m: B 堅硬、塊状でコア長20cm以上の棒状コア主体。 一部に含まれるゆる着割れ目も密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 上位に比べ緑泥石化が進み、φ2~5m/暗緑灰色斑点状~厚さ0.5m/細脈状で分布する。細脈状のものは大半が周囲とよく密着し、開口化していない。
177.65m 35° 厚さ2~3m/mの石英脈が分布。周囲と同化している。
177.83~178.27m 間にはφ5~10m/mと大型な橙色のカリ長石が晶出・点在する。
178.31~178.39m 上端75°, 下端70° 割れ目に囲まれ厚さ25m/m、φ5~10m/mに細片化している。厚さは25m/mでごく薄く砂状化する部分がある。上端面には緑泥石がフィルム状に付着している。
178.45m以深にはゆる着割れ目が多いが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 179.15~180.00m: CH 179.37~179.68m間の一部は割れ目交差部で片状化するが、岩片は堅硬で面は未風化・未変質で挟雑物も分布しない。 一部でわずかに緑泥石がフィルム状に付着する程度。 ゆる着割れ目の多くはすでに開口割れ目化している。

## 申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
233	・片状化、挟在物の有無、硬軟、割れ目の発達については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。 ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態、褐鉄鉱については、補足的なものであるため削除。 ・175.45~175.71mで断片的に鏡肌も認められるとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
234	・岩級及びその区間については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。
235	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟、割れ目の発達程度、緑泥石化については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。
236	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
237	・一般的な岩相であり、石英及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
238	・割れ目ぞいの細片化については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。
239	・割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。 ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・片状化、挟在物の有無、緑泥石については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。

余白



**H27-B-4**

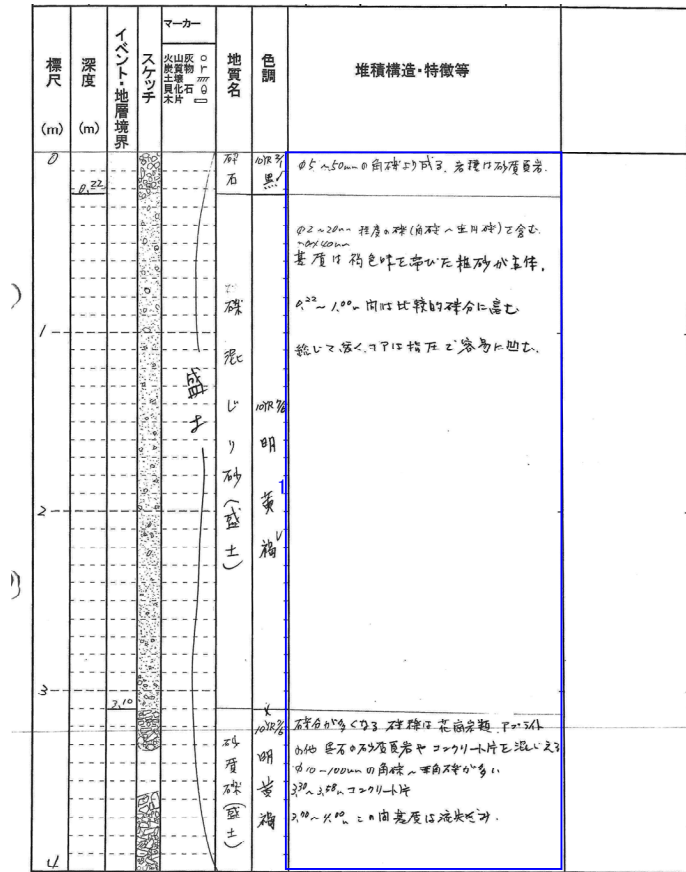
余白

# H27-B-4

## コア観察カード (H27年8月)

### コア観察カードの仮ワープロ変換

### 申請書用柱状図



記事内容

φ5~50mmの角礫より成る。岩種は砂質頁岩。

φ2~20mm程度の礫(角礫~亜円礫)を含む。  
max40mm  
基質は褐色味を帯びた粗砂が主体。

0.22~1.00m間は比較的礫分に富む

総じて緩く、コアは指圧で容易に凹む。

礫分が多くなる礫様は花崗岩類、アプライトの他黒石の砂質頁岩やコンクリート片を混じえる  
φ10~100mmの角礫~亜角礫が多い  
3.30~3.58m コンクリート片  
3.70~4.00m この間基質は流しぎみ。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	コア採取率	率	記事
m	m	m	図	区分	調	区分	(%)	(cm)	(%)			(%)	(%)	
							100					0.00~13.75m	A	盛土である。
					明黄褐		100							
					盛土		100							
					明黄褐		100							
							100							
							100							
							100							
							100							
							100							
							100							
							100							
							100							
							100							

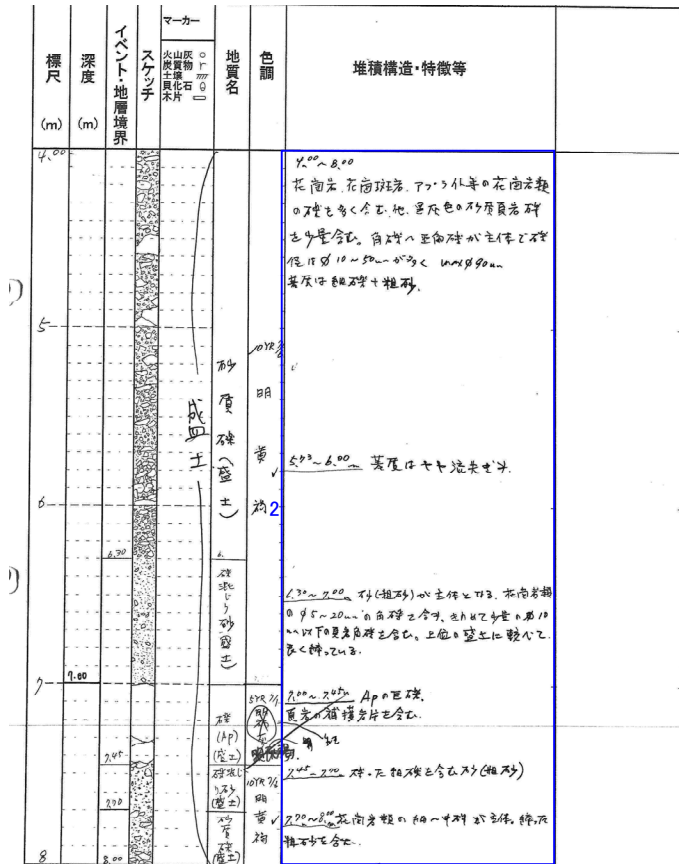
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
A.1	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。

# H27-B-4

## コア観察カード (H27年8月)

### コア観察カードの仮ワープロ変換

### 申請書用柱状図



記事内容
4.00~8.00 花崗岩、花崗斑岩、アプライト等の花崗岩類の礫を多く含む。他、黒灰色の砂質頁岩礫を少量含む。角礫~亜角礫が主体で礫径はφ10~50mmが多くmaxφ90mm 基質は細礫+粗砂
5.73~6.00m 基質はやや流しきみ。
6.30~7.00m 砂(粗砂)が主体となる。花崗岩類のφ5~20mmの角礫を含み、きわめて少量のφ10mm以下の頁岩角礫を含む。上位の盛土に較べて、良く締っている。
7.00~7.45m Apの巨礫。 頁岩の補獲岩片を含む。
7.45~7.70m 礫った細礫を含む砂(粗砂)
7.70~8.00m 花崗岩類の細~中礫が主体。締った粗砂を含む。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	コア採取率	最大コア長	記事
m	m	m	図	区分	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
					黄		100							0.00~13.75m 盛土である。
					明黄褐		100							
					盛土		100							
					明黄褐		100							

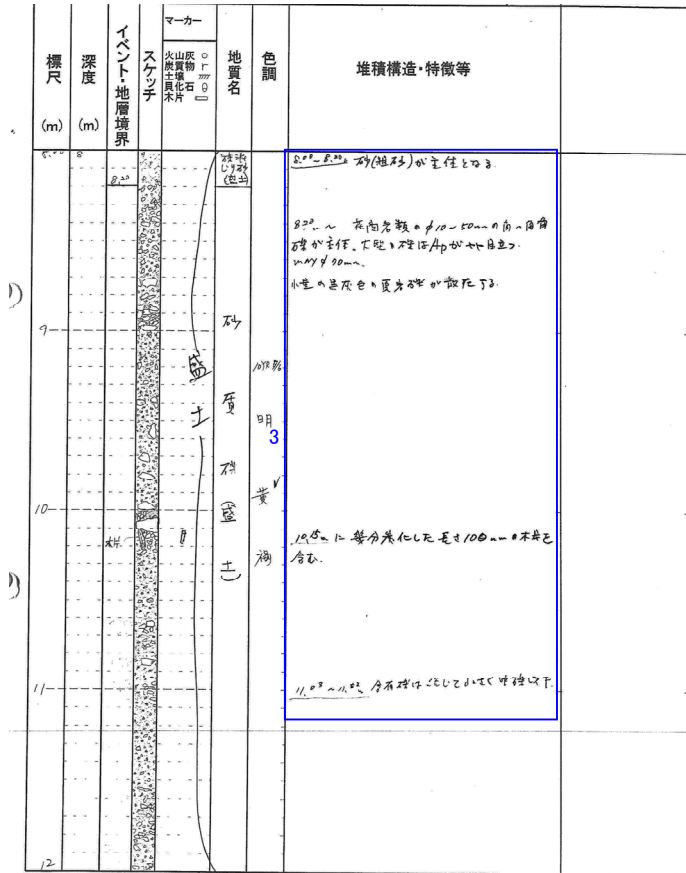
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
A.2	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。

# H27-B-4

## コア観察カード (H27年8月)

### コア観察カードの仮ワープロ変換

### 申請書用柱状図



スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ○ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アブライトAp 等  
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

記事内容
8.00~8.20m 砂(粗砂)が主体となる
8.20m~ 花崗岩類のφ10~50mmの角~角礫が主体。大型の礫はApがやや目立つ。max φ70mm 少量の黒灰色の頁岩礫が散在する。
10.15mに幾分炭化した長さ100mmの木片を含む。
11.03~11.52m 含有礫は総じて小さく中礫以下。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	記事
m	m	m	図	区分	調	区分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	
					明黄褐		100					0.00~13.75m ・ 礫土である。
					盛土		100					
					明黄褐		100					
							100					
							100					
							100					
							100					
							100					
							100					
							100					

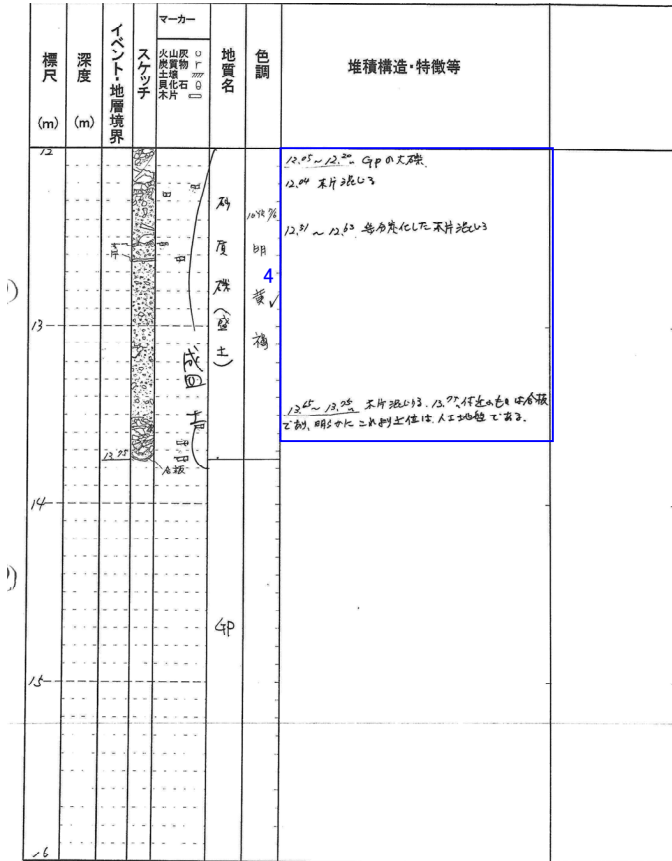
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
A.3	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。

# H27-B-4

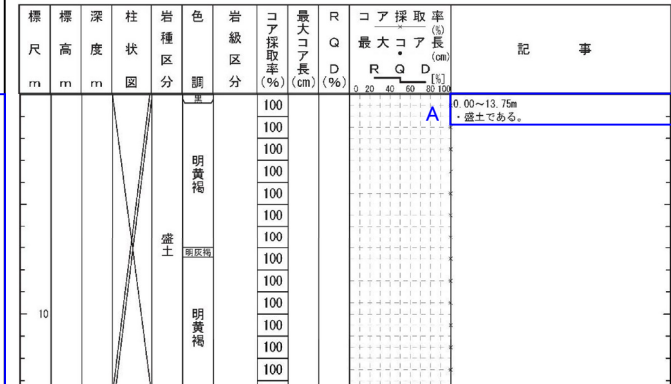
## コア観察カード (H27年8月)

### コア観察カードの仮ワープロ変換

### 申請書用柱状図



記事内容
12.05~12.20m Gpの大礫。 12.04 木片混じり
12.51~12.63 幾分炭化した木片混じり
13.65~13.75m 木片混じり。13.75m付近のものは合板であり、明らかにこれより上位は、人工地盤である。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
A,4	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。

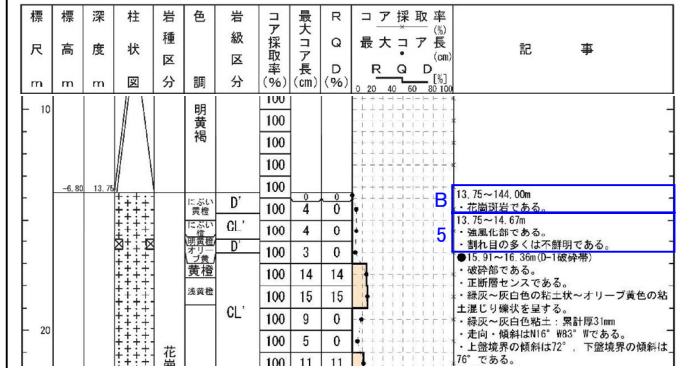
コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地質名	色	細区分				RQD	最大コア長 (cm)	岩級区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				粗粒部	中粒部	細粒部	風化				
		盛土									
	13.75									5 13.75~14.67m 風化が著しく、割れ目の多くは不鮮明となる	
	14.00									14.24m付近 割れ目に沿ったマンガンの汚染が顕著	
	14.53									6 14.53m付近 頁岩礫3ヶ。上部からの崩壊物と思われる	
	14.67									14.67m~ 風化は若干軽微となり、割れ目のほとんどが認識できるようになるが、コアは、軟質で脆い、割れ目に沿った薄い変質脈が白く見られるものがある。	

記事内容
5 13.75~14.67m 風化が著しく、割れ目の多くは不鮮明となる
14.24m付近 割れ目に沿ったマンガンの汚染が顕著
14.53m付近 頁岩礫3ヶ。上部からの崩壊物と思われる
6 14.67m~ 風化は若干軽微となり、割れ目のほとんどが認識できるようになるが、コアは、軟質で脆い、割れ目に沿った薄い変質脈が白く見られるものがある。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
B	・“地質名”欄に基づき、花崗斑岩とその深度区間を記載。
5	・“風化”欄に基づき、強風化部と記載。
6	・マンガン汚染、変質脈については、補足的なものであるため削除。 ・14.53mの頁岩礫については、掘削時の孔壁崩壊により混入したものと判断し削除。 ・割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・硬軟や脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。

コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	標準高位置	地質	細区分				RQD	岩種区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				割れ目	色調	変質	その他				
15	15.15								7	15.00~15.49m 低角度の割れ目が優勢、風化により割れ目沿いは劣化。砂~シルト状の細粒物が見られる。コアも軟質である。	
	15.66								7	15.52~15.60m 礫状コア、多くは上部からの崩壊物と思われる。	
	15.91								8	15.60~15.91m 割れ目沿いの劣化が著しく脆弱	
16	16.07								8	15.91~16.36m 破砕帯である。全体にマンガンで汚染される	
	16.36								9	15.91m 上盤72°、緑灰色の粘土がやや湾曲しながら厚さ2~6mmで見られる。	
	16.52								9	16.36m 下盤76°、灰白色の変質粘土が厚さ25mm程生じている。	
	16.52								10	16.36~16.52m 上位の破砕帯と風化の影響で劣化が著しい。	
	17.03								11	16.52~17.03m 割れ目沿いの劣化は顕著で一部礫~砂状となる	
17	17.03								12	17.03~17.86m 低角度の割れ目が優勢、割れ目沿いの劣化が見られ、コアも軟質で表面はザラつく。	

記事内容
15.00~15.49m 低角度の割れ目が優勢、風化により割れ目沿いは劣化。砂~シルト状の細粒物が見られる。コアも軟質である。
15.52~15.60m 礫状コア、多くは上部からの崩壊物と思われる。
15.60~15.91m 割れ目沿いの劣化が著しく脆弱
15.91~16.36m 破砕帯である。全体にマンガンで汚染される
15.91m 上盤72°、緑灰色の粘土がやや湾曲しながら厚さ2~6mmで見られる。
16.36m 下盤76°、灰白色の変質粘土が厚さ25mm程生じている。
16.36~16.52m 上位の破砕帯と風化の影響で劣化が著しい。
16.52~17.03m 割れ目沿いの劣化は顕著で一部礫~砂状となる
17.03~17.86m 低角度の割れ目が優勢、割れ目沿いの劣化が見られ、コアも軟質で表面はザラつく。

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
	15.15				D'	100	0	0			13.75~14.00m ・花崗閃岩である。
	15.66				CL'	100	4	0			13.75~14.67m ・強風化部である。
	15.91				D'	100	3	0			・割れ目の多くは不明である。
	16.07				D'	100	14	14			●15.91~16.36m(D-1破砕帯) ・破砕帯である。
	16.36				CL'	100	15	15			・正断層センスである。
	16.52				CL'	100	9	0			・緑灰~灰白色の粘土状~オリブ黄色の粘土混じり礫状を呈する。
	16.52				CL'	100	5	0			・緑灰~灰白色粘土、累計厚31mm
	16.52				CL'	100	11	11			・走向・傾斜はN16° W83° である。
	17.03				CM'	100	7	0			・上盤境界の傾斜は72°、下盤境界の傾斜は76°である。
	17.03				CM'	100	5	0			16.52~17.03m ・一部礫~砂状を呈する。
	17.03				CM'	100	5	0			17.02~17.86m ・低角度の割れ目が多い。
	17.03				CM'	55	5	0			20.23~20.37m ・割れ目沿い、一部細礫状を呈する。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・15.00~15.49mの割れ目沿いに砂~シルト状の細粒物を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>・硬軟や脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>・15.52~15.60mで礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。</li> </ul>
8, 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・破砕帯名を記載。</li> <li>・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>・“色調”欄に基づき、オリブ黄色と記載。</li> <li>・“破砕度区分”欄に基づき、粘土混じり礫状と記載。</li> <li>・粘土の累計幅については、最大値の合計を記載。</li> <li>・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>・マンガンについては、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・劣化が著しいが、劣化に系統性が認められないことから削除。</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変更なし</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目沿いの劣化については、当該区間周囲の割れ目と明瞭な差が認められないため削除。</li> <li>・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。</li> </ul>



# H27-B-4

## コア観察カード (H27年8月)

標尺 90 (m)	深度 (m)	境界 位置	地層	色	相区分				RQD	最大コア長	岩級区分	記事
					割れ目の 状況	子割れ目の 状況	風化	変質				
	17.56											
	17.88											
	18.52											
	18.85											
	19.08											
	19.57											
	19.76											
	19.97											

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
13 17.86~18.00m コア表面のザラつきは幾分軽微。
13 18.00~19.08m 低角度の微細な割れ目が非常に多い
14 18.70~20.00m 斜長石の風化し軟質となった比較的大型の斑晶が目立つ
15 19.57~19.76m 礫状コアが主体となる

## 申請書用柱状図

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア採取率 (%)		最大コア長 (cm)		記事
							R	Q	R	Q	
							100	0	0	0	
						D'	100	4	0	0	13.75~144.00m ・花崗閃岩である。
						CL'	100	3	0	0	13.75~14.67m ・強風化部である。
						D'	100	3	0	0	・割れ目の多くは不鮮明である。
							100	14	14	0	●15.91~16.35m(D-I破砕帯) ・破砕帯である。
							100	15	15	0	・正断層センスである。
						CL'	100	9	0	0	・緑灰~灰白色の粘土状~オリブ黄色の粘 土層より礫状を呈する。
							100	5	0	0	・緑灰~灰白色粘土、集計厚31mm
							100	11	11	0	・走向・傾斜はN16° W83° である。
						CM'	100	7	0	0	・上盤境界の傾斜は72°、下盤境界の傾斜は 76°である。
							100	5	0	0	16.92~17.03m ・一部が礫状を呈する。
							100	5	0	0	17.02~17.86m
							55	5	0	0	20.23~20.37m ・低角度の割れ目が多い。
											・割れ目良い、一部細礫状を呈する。

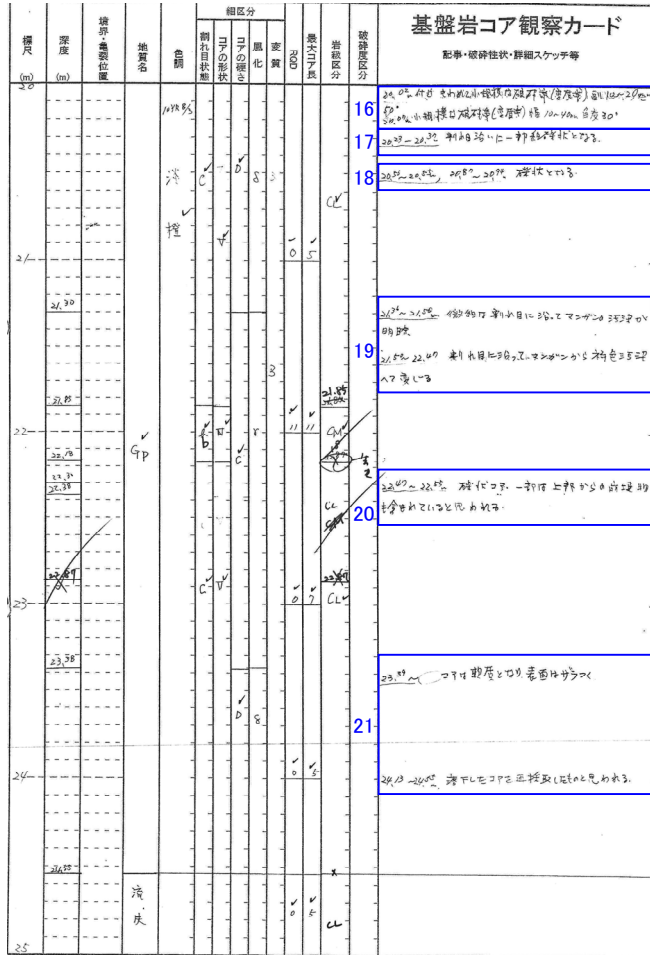
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
13	・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
14	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
15	・19.57~19.76mで礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。

# H27-B-4

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図



記事内容
20.02m付近 きわめて小規模な破砕帯(変質帯)副10~20mm 50°
20.07m 小規模な破砕帯(変質帯)幅10~40mm角度30°
20.23~20.37m 割れ目沿いに一部細礫状となる。
20.56~20.55m, 20.87~20.94m 礫状となる。
21.36~21.50m 微細な割れ目に沿ってマンガンの汚染が明瞭
21.50~22.47 割れ目に沿ってマンガンから褐色汚染へと変じる
22.47~22.55m 礫状コア、一部は上部から崩壊物も含まれていると思われる。
23.39~ コアは軟質となり、表面はザラつく
24.13~24.55m 落下したコアを再採取したものと思われる。

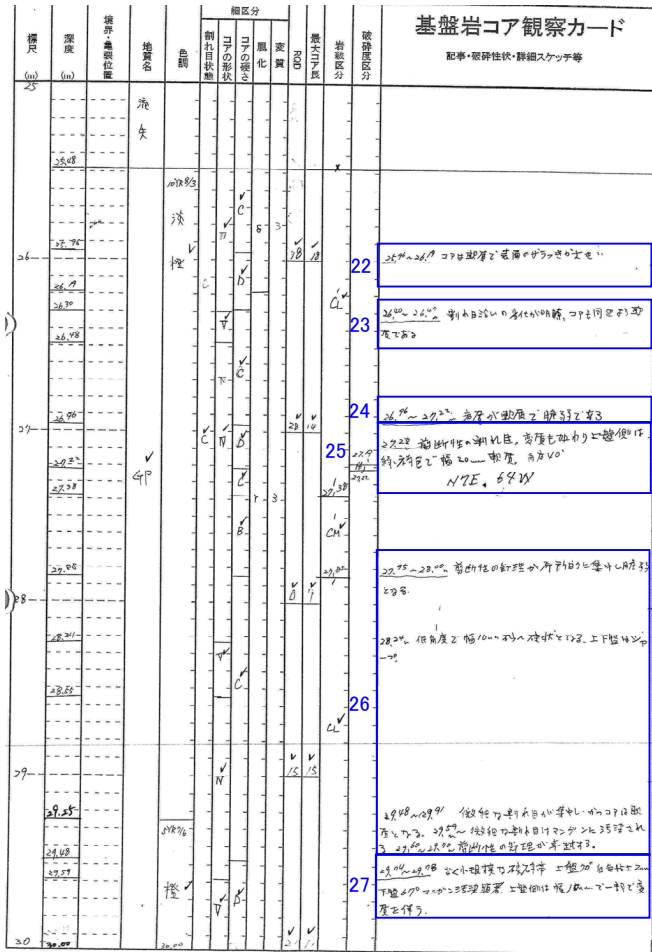
標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	最大コア長	率	記事
m	m	m	図	区分	調	区分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(cm)	(%)	
		20		花崗斑岩	淡褐色	CL'	100	15	15					・正断層センスである。 ・緑灰~灰白色の粘土状~オリブ黄色の粘土層に礫状を呈する。 ・緑灰~灰白色粘土、集計層3mm ・走向・傾斜はN46° W83° である。 ・上盤境界の傾斜は72°、下盤境界の傾斜は76°である。 16.52~17.03m ・一部礫状を呈する。 17.02~17.85m ・低角度の割れ目が多い。 20.23~20.37m ・割れ目沿いに、一部細礫状を呈する。 20.55~20.65m 20.87~20.94m ・礫状を呈する。 22.47~22.55m ・礫状を呈する。 23.36~23.79m 26.96~27.22m ・軟質である。 ●29.74~29.78m ・破砕部である。カタクレサイトからなる
						CL'	100	9	0					
						CL'	100	5	0					
						CL'	100	11	11					
						CM'	100	7	0					
						CL'	100	5	0					
						CL'	55	5	0					
						CL'	52	18	18					
						CL'	100	14	28					
						CL'	100	9	0					
						CL'	100	15	15					
						CL'	100	11	21					

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
16	・20.02mと20.07mの小規模な破砕帯(変質帯)との記載については、連続性に乏しく、原岩組織の残留の程度に周囲と明瞭な差が認められず、周囲の岩盤の劣化に系統性も認められないことから、破砕部ではないものと判断し削除。
17	・変更なし
18	・深度20.56~20.55m⇒20.55~20.65m <sup>※3</sup>
19	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・マンガン、変色については、補足的なものであるため削除。
20	・崩壊物も含まれていると思われるとの記載については、孔壁崩壊による岩片を含んでいる可能性を指摘したものであるが、ポアホールテレビによる観察結果から、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため削除。
21	・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。 ・24.13~24.55mで落下したコアを再採取したものと思われるとの記載については、機械割れによるコアの劣化を指摘したものであるが、ポアホールテレビによる観察結果から、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため削除。

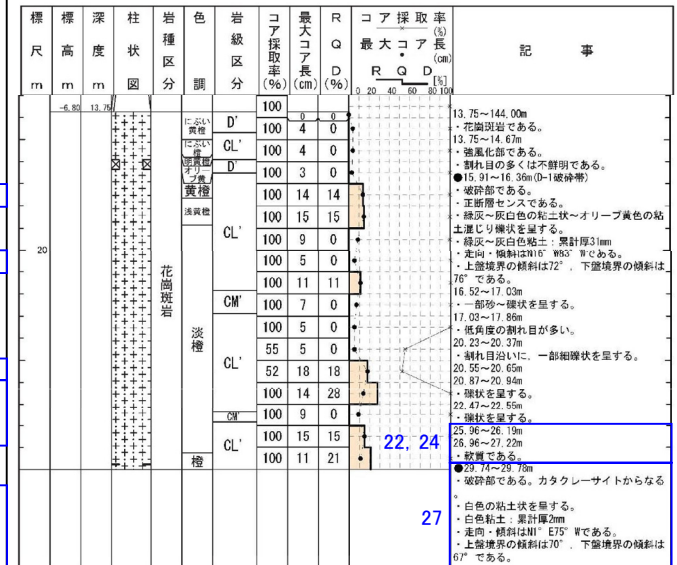
コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
22 25.96~26.19m コアは軟質で表面のザラつきが大きい
23 26.40~26.47m 割れ目沿いの劣化が明瞭、コアも周辺より軟質である
24 26.96~27.22m 岩質が軟質で脆弱である
25 27.22m 剪断性の割れ目。変質も加わり上盤側は緑褐色で幅20mm軟質。角度40° N7E.64W
26 27.95~28.00m 剪断性の節理が局所的に集中し脆弱となる
26 28.24m 低角度で幅10mm砂~礫状となる。上下盤はシャープ。
27 29.48~29.91m 微細な割れ目が集中し、かつコアは軟質となる。29.59m~微細な割れ目はマンガンに汚染される
27 29.60~29.70m 剪断性の節理が卓越する。
27 29.74~29.78m ごく小規模な破砕帯 上盤70° 白色粘土2mm下盤67° マンガン汚染顕著。上盤側は幅10mmで一部で変質を伴う。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
22	・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。
23	・割れ目沿いに劣化が明瞭との記載については、当該区間周囲の割れ目と明瞭な差が認められないことから削除。
24	・変更なし
25	・剪断性の割れ目との記載があるが、周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
26	・27.95~28.00mで剪断性の節理が局所的に集中との記載、28.24mで砂~礫状となるとの記載については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・29.48~29.91mで割れ目が集中し、軟質となるが、当該区間に含まれる破砕部を除き、原岩組織が残留し、劣化に系統性も認められないことから削除。 ・29.60~29.70mで剪断性の節理が卓越するとの記載については、岩盤の劣化が系統的でないことから削除。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
27	・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・マンガン汚染については、補足的なものであるため削除。 ・変質については、変質を受けた部分の連続性に乏しいことから削除。

# H27-B-4

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	コア採取位置	加減	組成分				岩種区分	破砕区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				粘土質	シルト質	砂質	礫質			
31	30.77			✓					28 30.77~30.87 15度程度の割れ目が優勢である。	
	30.87			✓					30.87~30.90 10度程度の割れ目形状の高角度の割れ目が2条見られ、マンガンが3~5mmの厚さで析出している。	
	31.00			✓					31.00~31.02 20~30度程度の微細な割れ目が、ほぼ平行に密集する。	
	31.02			✓					31.02~31.04 剪断を受ける上盤45度 暗緑灰色の粘土~シルトを3mm伴う。下盤40度。上下盤の間はやや緑色味を帯び軟質である。	
	31.04			✓					31.04~31.06 20~30度程度の剪断性の節理が平行して集中する。	
	31.06			✓					31.06~31.08 30度程度の節理がほぼ平行して集中する。緑レン石の薄い脈が3条見られる。	
	31.08			✓					31.08~31.10 30~50度の割れ目が優勢、割れ目に沿って明瞭な劣化が見られるものが多い。	
	31.10			✓					31.10~31.12 割れ目が集中し礫~岩片状コアとなる。人為的？	
	31.12			✓					31.12~31.14 局所的(連続しない)に低角度で破砕され細礫状となる。	
	32	32.00			✓					
33	33.00			✓						
34	34.00			✓						
35	35.00			✓						

記事内容
30.10~30.69 低角度の割れ目が優勢である。
30.62~30.73m この間、やや不規則な形状の高角度の割れ目が2条見られ、マンガンが3~5mmの厚さで析出している。
31.77~31.93m やや低角度の微細な割れ目が、ほぼ平行に密集する。
31.87~31.91m 剪断を受ける上盤45度 暗緑灰色の粘土~シルトを3mm伴う。下盤40度。上下盤の間はやや緑色味を帯び軟質である
32.36~32.39m 20度~30度程度の剪断性の節理が平行して集中する
32.68~32.73m 30度程度の節理がほぼ平行して集中する。緑レン石の薄い脈が3条見られる
33.00~33.62m 30~50度の割れ目が優勢、割れ目に沿って明瞭な劣化が見られるものが多い。
34.30~34.42m 割れ目が集中し礫~岩片状コアとなる。人為的？
34.55m付近、局所的(連続しない)に低角度で破砕され細礫状となる

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア	最大	R	コア	記事
m	m	m	図	調	区分	採取率(%)	コア長(cm)	Q	D	最大コア長(cm)
										R Q D (%)
40	31.77			にみい橙	CL'	100	13	25		31.77~31.93m ・低角度で、ほぼ並行する微細な割れ目が多い。
	31.93			にみい橙	CL'	100	12	12		32.96~32.73m ・傾斜30度程度の、ほぼ並行する割れ目が多い。
	32.73			にみい橙	CH'	100	17	27		33.00~33.62m ・傾斜30~50度の割れ目が多い。
	33.62			にみい橙	CH'	100	14	14		35.60~35.78m ・低角度の、ほぼ並行する割れ目が多い。
	35.78			にみい橙	CH'	100	28	28		36.98~37.10m ・割れ目沿いに、一部白色鉱物脈を挟む。
	37.10			浅黄	CH'	100	22	56		高角度の割れ目に沿って、幅12mm程度砂~細礫状を呈する。
	39.84			浅黄	CH'	100	15	29		37.36~39.84m ・硬質である。
	40.00			浅黄	CH'	100	8	0		主として、短柱~柱状を呈する。
	40.00			浅黄	CH'	100	6	0		
	40.00			浅黄	CH'	100	6	0		

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
28	・割れ目の傾斜、マンガンについては、補足的なものであるため削除。
29	・変更なし
30	・剪断を受けるとの記載、粘土~シルトを伴うとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
31	・ほぼ並行する割れ目の分布についてまとめ書き。
32	・割れ目沿いの劣化の程度については、当該区間の周囲との差が明瞭ではないことから削除。
33	・34.30~34.42mで礫~岩片状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・34.55m付近で破砕され細礫状との記載があるが、連続性に乏しいことから削除。

# H27-B-4

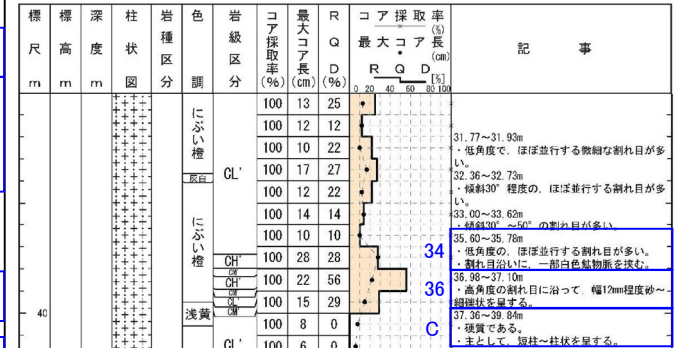
## コア観察カード (H27年8月)

### コア観察カードの仮ワープロ変換

### 申請書用柱状図

標尺		深度 (m)	柱状	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	記事
目	尺															
32	32.00	32.00	+	CL'	灰色	100	13	25	0	20	40	60	80	100		
34	35.72	35.72	+	CL'	灰色	100	12	12								
35	36.14	36.14	+	CL'	灰色	100	10	22								
36	36.98	36.98	+	CH'	灰色	100	17	27								
37	37.36	37.36	+	CH'	灰色	100	12	22								
38	38.08	38.08	+	CH'	灰色	100	14	14								
39	38.96	38.96	+	CH'	灰色	100	10	10								
40	39.21	39.21	+	CH'	灰色	100	28	28								
	39.60	39.60	+	CH'	灰色	100	22	56								
	39.65	39.65	+	CH'	灰色	100	15	29								
	39.84	39.84	+	CH'	灰色	100	8	0								
	39.85	39.85	+	CH'	灰色	100	6	0								

記事内容
34 35.60～35.78m 低角度のほぼ平行した割れ目が集中し脆弱となる。割れ目沿いに白色の鉱物脈が見られる所が多い。
35 35.72m付近で礫状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
36 36.14～36.35m この間割れ目がやや卓越する
37 36.98～37.10m 高角度の割れ目に沿って劣化する。厚さ12mmで細礫～砂状となる。
38 37.36m 25°の割れ目に沿って厚さ4mmの暗褐色のシルト～砂が挟まる(流入?)
39 37.36～37.98m 割れ目の汚染は明瞭であるが狭小物は見られない。
40 38.08～38.96m 狭小物が見られる割れ目は、38.53mの高角度のものが1条のみ。
41 38.96m～ 割れ目に沿って劣化するものが多い
42 39.21m, 39.60～39.65m 割れ目沿いに劣化し、幅10mm以下で砂～細礫状となる。

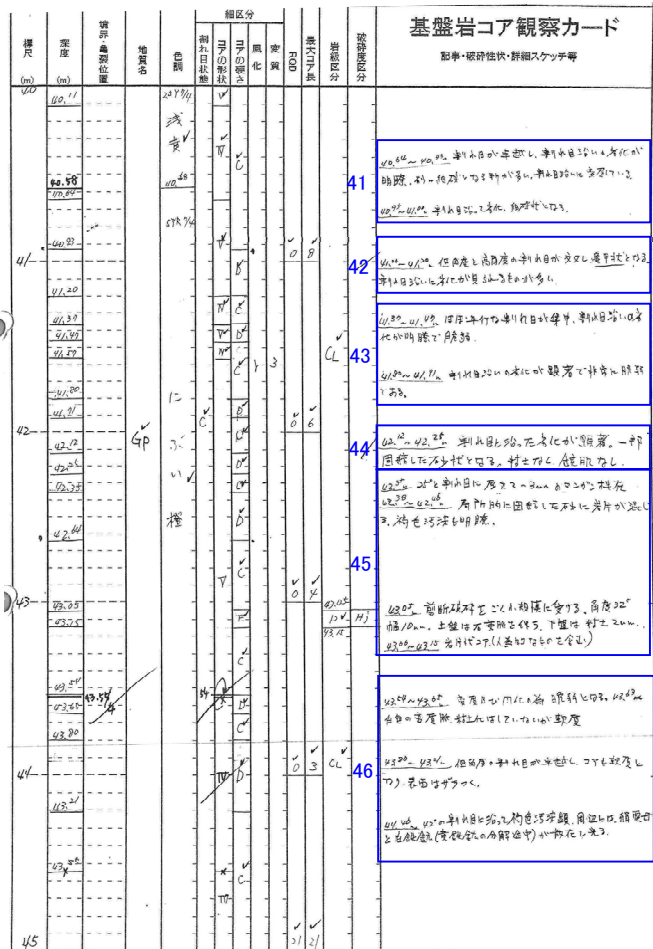


記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
34	・変更なし
35	・35.72m付近で礫状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
36	・変更なし
37	・37.36mでシルト～砂を挟むが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目の汚染、挟小物の有無については、補足的なものであるため削除。
C	・硬軟について、“コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。 ・割れ目の発達程度について、“コアの形状”欄に基づき、短柱～柱状と記載。
38	・一部割れ目に挟小物が分布するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
39	・割れ目沿いの劣化については、著しい箇所を個別に別途記載していることから削除。
40	・割れ目沿いに砂～細礫状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
41 40.64~40.93m 割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化が明瞭、砂~細礫となる所が多い、割れ目沿いに変質している。 40.95~41.00m 割れ目沿って劣化、細礫状となる。
42 41.00~41.20m 低角度と高角度の割れ目が交叉し、亀甲状となる。割れ目沿いに劣化が見られるものが多い
43 41.37~41.47m ほぼ平行な割れ目が集中、割れ目沿いの劣化が明瞭で脆弱。 41.80~41.91m 割れ目沿いの劣化が顕著で非常に脆弱である。
44 42.12~42.25m 割れ目に沿った劣化が顕著。一部固結した砂状となる。粘土なし、鏡肌なし。 42.35m 25°と割れ目に厚さ2~3mmのマンガン狭帯 42.38~42.46m 局所的に固結した砂に岩片が混じる。褐色汚染も明瞭。
45 43.05m 剪断破砕をごく小規模に受ける。角度32° 幅10mm、上盤は石英脈を伴う。下盤は粘土2mm。 43.06~43.15m 岩片状コア。(人為的なものを含む)
46 43.54~43.65m 変質及び風化の脆弱となる。43.63m白色の変質脈、粘土化はしていないが軟質 43.80~43.21m 低角度の割れ目が卓越し、コアも軟質となり、表面はザラつく。 44.46m 42°の割れ目に沿って褐色汚染頭。周辺には絹雲母と白鉄鉱(黄鉄鉱の分解途中)が散在し光る。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	最大コア長	コア採取率	率	記事
m	m	m	図	区分	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(cm)	(%)	(%)	
		40			浅黄		100	22	56						36.98~37.10m ・高角度の割れ目に沿って、幅12mm程度砂~細礫状を呈する。 37.36~39.84m ・硬質である。 ※として、短柱~柱状を呈する。
						CL'	100	15	29						41.00~41.20m ・低角度と高角度の割れ目が交叉し、網目状を呈する。
						CL'	100	6	0						42
						CL'	100	4	0						
						CL'	100	3	0						
						CL'	100	21	21						
						CL'	100	8	0						
						CL'	100	10	10						46.10~46.35m ・傾斜60°~70°の割れ目が多い。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
41	・40.64~40.93m, 40.95~41.00mで割れ目沿いに砂~細礫状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
42	・表現の見直し(亀甲状→網目状)
43	・脆弱化や割れ目の発達については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示していることから削除。
44	・割れ目沿いに砂状化するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・鏡肌なしとの記載については、補足的なものであるため削除。
45	・マンガン, 変色, 鉱物脈については、補足的なものであるため削除。 ・42.38~42.46mの一部で砂状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・43.05mで剪断破砕との記載があるが、劣化部の連続性に乏しいことから削除。 ・43.06~43.15mで岩片状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
46	・硬軟や割れ目の発達については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示していることから削除。 ・変質脈, 割れ目の傾斜, コア表面の粗さ, 変色, 割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。

# H27-B-4 コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	境界線 位置	地質 名称	色調	細区分		RQD	最大コア長 (cm)	岩級区分	記事
					割れ目の 形状	割れ目の 方向				
46	46.00		花崗岩	灰色	割れ目	60°	100	21	21	47
47	47.00		花崗岩	灰色	割れ目	60°	100	8	0	48
48	48.00		花崗岩	灰色	割れ目	60°	100	10	10	49
49	49.00		花崗岩	灰色	割れ目	60°	100	9	0	50
50	50.00		花崗岩	灰色	割れ目	60°	100	5	0	51
51	51.00		花崗岩	灰色	割れ目	60°	100	11	21	52
52	52.00		花崗岩	灰色	割れ目	60°	100	6	0	53
53	53.00		花崗岩	灰色	割れ目	60°	100	11	11	
54	54.00		花崗岩	灰色	割れ目	60°	100	6	0	
55	55.00		花崗岩	灰色	割れ目	60°	100	6	0	
56	56.00		花崗岩	灰色	割れ目	60°	100	4	0	

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
45.10m 剪断性の節理 上盤側は一部巾20mmで脆弱となる。絹雲母が散在し光る。
45.42~45.62m 微細な割れ目が集中し、コアも軟質で表面がザラつく所が多い
45.73~45.80m 割れ目沿いに劣化し、礫状~砂状となる。
46.10~46.35m 60°~70°の割れ目が集中する。狭在物の見られる割れ目もあるが、汚染はほとんど見られない。
47.11~47.32m 微細な割れ目が網目状となる。割れ目沿いの劣化も見られ軟質、脆弱となる
47.36~47.53m 高角度と低角度の割れ目が交叉し格子状となる。割れ目の汚染は見られないが砂状の狭在物が見られる。
47.76~ 微細な割れ目が卓越し、脆弱となる。47.76~47.88m間は、割れ目沿いのマンガン汚染が明瞭。
48.38m 破碎帯 上盤52° 下盤45° 幅30mmやや赤味を帯びる
49.18m 剪断性の節理63° 上盤側幅20mm劣化し脆弱となる
49.43m 白色の鉱物脈風化しやや軟質幅4mm角度47°

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	最大 コア 長 (cm)	記事
46	46.00		花崗岩	灰色	CL'	100	21	21		
47	47.00		花崗岩	灰色	CL'	100	8	0		
48	48.00		花崗岩	灰色	CM'	100	10	10		47
49	49.00		花崗岩	灰色	CL'	100	9	0		49
50	50.00		花崗岩	灰色	CL'	100	5	0		
51	51.00		花崗岩	灰色	CL'	100	11	21		51
52	52.00		花崗岩	灰色	CL'	100	6	0		
53	53.00		花崗岩	灰色	CL'	100	11	11		
54	54.00		花崗岩	灰色	CL'	100	6	0		
55	55.00		花崗岩	灰色	CL'	100	6	0		
56	56.00		花崗岩	灰色	CL'	100	4	0		

46.10~46.35m  
・傾斜60°~70°の割れ目が多い。  
47.11~47.32m  
・微細な割れ目が、網目状に分布する。  
48.30~48.33m  
・破碎部である。カタクレーサイトからなる  
51  
・にふい橙色の粘土体を呈する。  
・にふい橙色粘土・炭針厚30mm  
・走向・傾斜はN48° E78° Eである。  
・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は45°である。  
52, 43~50, 60m  
・軟質である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
47	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。 ・45.10mで剪断性の節理との記載があるが、変位が認められず、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・45.73~45.80mで割れ目沿いに礫状~砂状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
48	・挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
49	・硬軟や脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
50	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・47.36~47.53mの一部割れ目に砂状の挟在物を伴うが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
51	・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなる」と記載。 ・“破碎度区分”欄に基づき、48.30~48.33m、粘土状と記載。 ・色調については、“色調”欄に基づき、にふい橙色と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。
52	・剪断性の節理との記載があり、割れ目沿いに脆弱化するが、劣化部の連続性に乏しく、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないことから削除。
53	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。

コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

深度 (m)	境界位置 (m)	地層	色	細区分		RQD	最大コア長 (cm)	最大コア径 (cm)	最大コア重 (g)	最大コア容積 (cm <sup>3</sup> )	最大コア長 (cm)	最大コア径 (cm)	最大コア重 (g)	最大コア容積 (cm <sup>3</sup> )	記事
				割れ目	鉱物										
50.07															54 50.07 70° の開口割れ目にマンガン厚さ5mm析出
50.39															55 50.39~50.60m 劣化しコア全体が軟質、表面は砂状となる所がある。軟質脆弱
50.58															56 50.58~50.92m 白色細脈が不規則に入る。
51.20															57 51.20~51.43m 微細な割れ目が卓越し亀甲状となる。割れ目に沿って淡い桃色脈(カリ長石)が見られる所が多い。
51.66															57 51.66~51.97m 微細割れ目が非常に卓越(30~50°)。コアは軟質となる。
51.90															57 51.90m 45° の割れ目沿いに変質した白色鉱物脈厚さ4mm汚色汚染明瞭
52.48															58 52.48~52.44m 微細な割れ目が密集。コアは局所的に礫状となる。上盤側の割れ目に厚さ4mmのマンガン狭にする
52.44															58 52.44~53.35m 低角度の割れ目が卓越、割れ目に沿った褐色汚染は軽微である
53.54															58 53.54~53.59m 割れ目沿いの劣化が明瞭で、コアの一部は細礫~砂状となる。
53.74															58 53.74mの高角度の割れ目に沿って劣化し、一部細礫状となる
54.66															59 54.66~54.73m 50~60° のほぼ平行な割れに沿って劣化。一部礫状となる。褐色汚染も顕著。

記事内容
54 50.07 70° の開口割れ目にマンガン厚さ5mm析出
55 50.39~50.60m 劣化しコア全体が軟質、表面は砂状となる所がある。軟質脆弱
56 50.58~50.92m 白色細脈が不規則に入る。
57 51.20~51.43m 微細な割れ目が卓越し亀甲状となる。割れ目に沿って淡い桃色脈(カリ長石)が見られる所が多い。
57 51.66~51.97m 微細割れ目が非常に卓越(30~50°)。コアは軟質となる。
57 51.90m 45° の割れ目沿いに変質した白色鉱物脈厚さ4mm汚色汚染明瞭
58 52.48~52.44m 微細な割れ目が密集。コアは局所的に礫状となる。上盤側の割れ目に厚さ4mmのマンガン狭にする
58 52.44~53.35m 低角度の割れ目が卓越、割れ目に沿った褐色汚染は軽微である
58 53.54~53.59m 割れ目沿いの劣化が明瞭で、コアの一部は細礫~砂状となる。
58 53.74mの高角度の割れ目に沿って劣化し、一部細礫状となる
59 54.66~54.73m 50~60° のほぼ平行な割れに沿って劣化。一部礫状となる。褐色汚染も顕著。

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
	50.07					100	6	0	*				・ ぶい褐色の粘土状を呈する。 ・ ぶい褐色粘土：異径厚30mm ・ 走向・傾斜はN48° E78° Eである。 ・ 上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は45°である。 ・ 50.43~50.60m ・ 軟質である。 ・ 51.20~51.43m ・ 51.66~51.97m ・ 52.39~52.44m ・ 微細な割れ目が多い。 ・ 54.96~55.55m ・ 低角度の割れ目が多い。 ・ 55.45~56.61m ・ 高角度と高角度の割れ目が交差し、網目状を呈する。
	50.39				CL'	100	11	11	*			55	
	50.58					100	6	0	*			56	
	51.20					100	4	0	*			57	
	51.66					100	9	0	*			57	
	51.90					100	7	0	*			57	
	52.48				CL'	100	10	10	*			58	
	52.44					100	6	0	*			58	
	53.54				CM	100	19	32	*			58	
	53.74					100	32	44	*			58	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
54	・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
55	・表面は砂状との記載については、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・50.39mとの記載があるが、劣化が顕著な区間として、50.43~50.60mと記載。
56	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
57	・鉱物脈、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、区間毎にばらつきがあることから削除。
58	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。 ・53.55~53.59mで細礫~砂状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・53.74mの割れ目沿いで細礫状を呈するが、連続性に乏しいことから削除。
59	・一部が礫状化しているが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・変色については、補足的なものであるため削除。



# H27-B-4

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地質名	色	細区分				最大コア長	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				割れ目の有無	割れ目の方向	割れ目の長さ	割れ目の幅			
55									60	54.96~55.55m 低角度の割れ目が非常に卓越する
									61	55.56m 50°の割れ目間に厚さ8mmで砂が狭在する。褐色汚染も明瞭である。
									62	56.45~56.61m 高角度と低角度の割れ目が交叉し亀甲状となる。 56.74m 71°の割れ目に褐色粘土厚さ3mm狭在 56.88~56.98m 約50°のほぼ平行した微細な割れ目が卓越、一部礫状コアとなる。
									63	57.24~58.50m この間多くの割れ目に褐色汚染が見られる
									64	57.54~57.74m 割れ目沿いに劣化。軟質脆弱。
									65	58.06~58.71m 砂状の挟在物が見られる割れ目が多いが岩質は硬い。
									66	59.02~59.34m 潜在的なものを除き、割れ目のない柱状コア岩質も硬い

記事内容
60 54.96~55.55m 低角度の割れ目が非常に卓越する
61 55.56m 50°の割れ目間に厚さ8mmで砂が狭在する。褐色汚染も明瞭である。
62 56.45~56.61m 高角度と低角度の割れ目が交叉し亀甲状となる。 56.74m 71°の割れ目に褐色粘土厚さ3mm狭在 56.88~56.98m 約50°のほぼ平行した微細な割れ目が卓越、一部礫状コアとなる。
63 57.24~58.50m この間多くの割れ目に褐色汚染が見られる
64 57.54~57.74m 割れ目沿いに劣化。軟質脆弱。
65 58.06~58.71m 砂状の挟在物が見られる割れ目が多いが岩質は硬い。
66 59.02~59.34m 潜在的なものを除き、割れ目のない柱状コア岩質も硬い

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	最大コア率	記事
m	m	m	図	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	
55						100	6	0	*			・にぶい褐色の粘土状を呈する。 ・にぶい褐色粘土、厚さ約30mm ・走向・傾斜は48° E70° Eである。 ・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は45°である。 ・50.43~50.60m ・軟質である。 ・51.20~51.40m ・51.66~51.97m ・52.38~52.44m ・微細な割れ目が多い。 ・低角度の割れ目が多い。 ・56.45~56.61m ・低角度と高角度の割れ目が交叉し、網目状を呈する。
					CL	100	11	11	*			
					CL	100	6	0	*			
					CL	100	4	0	*			
					CL	100	9	0	*			
					CL	100	7	0	*			
					CL	100	10	10	*			
					CL	100	6	0	*			
					CM	100	19	32	*			
					CL	100	32	44	*			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
60	・変更なし
61	・割れ目に砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
62	・表現の見直し(亀甲状→網目状)
63	・56.74mで粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・56.88~56.98mで一部礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。
64	・割れ目沿いに軟質化するが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
65	・一部割れ目に砂状の挟在物を伴うが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
66	・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。

# H27-B-4 コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

層号	深度 (m)	境界・地層位置	地層名	色調	割れ目状況	風化	変質	RQD	最大コア長	基盤岩コア観察カード	
										記事・硬軟性・詳細スケッチ等	破砕度区分
60	60.07										60.07~60.45m 微細な割れ目が卓越し、コアも軟質となる。割れ目沿いにコア表面は凹む所が多く、ザラつく。
61	60.45		GR	緑	V	D	S	S	CL	67	60.45~60.82m 低~中角度の平行に近い割れ目が卓越。割れ目に沿った褐色汚染が明瞭
	60.82	60.82~61.72m 微細な割れ目が卓越。コアも軟質で脆弱特に61.40~61.58m間は劣化が顕著。									
62	61.72		GR	緑	V	D	S	S	CL	68	61.72~62.36m コアは若干硬くなるが、不規則で微細な割れ目が非常に卓越する。 コアは軟質となり、表面がザラつく
	62.36	62.36~63.25m コアは軟質となり、表面がザラつく。低角度がやや優性な不規則で微細な割れ目が卓越する。									
63	62.75		GR	緑	V	D	S	S	CL	69	62.75m 剪断性の割れ目(節理)幅10mmやや緑色味を帯び、褐色汚染が明瞭
	63.25	63.00~63.26 劣化し全体に軟質脆弱。割れ目に砂やシルトが生じている。 63.62~63.90m 全体に軟質脆弱。亀甲状の割れ目には灰白色のシルトが生じている。									
64	63.90		GR	緑	V	D	S	S	CL	70	63.90~63.30 変質し軟質割れ目は不鮮明となり、やや緑色味を帯びる。
	64.91	64.65~64.91m 破砕帯 64.65m 上盤65° 粘土3mm 64.91m 下盤65° (やや不鮮明)これより上位礫状上下盤の間に剪断面2条あり									

記事内容	
60.07~60.45m	微細な割れ目が卓越し、コアも軟質となる。割れ目沿いにコア表面は凹む所が多く、ザラつく。
60.45~60.82m	低~中角度の平行に近い割れ目が卓越。割れ目に沿った褐色汚染が明瞭
60.82~61.72m	微細な割れ目が卓越。コアも軟質で脆弱特に61.40~61.58m間は劣化が顕著。
61.72~62.36m	コアは若干硬くなるが、不規則で微細な割れ目が非常に卓越する。 コアは軟質となり、表面がザラつく
62.36~63.25m	コアは軟質となり、表面がザラつく。低角度がやや優性な不規則で微細な割れ目が卓越する。
62.75m	剪断性の割れ目(節理)幅10mmやや緑色味を帯び、褐色汚染が明瞭
63.00~63.26	劣化し全体に軟質脆弱。割れ目に砂やシルトが生じている。
63.62~63.90m	全体に軟質脆弱。亀甲状の割れ目には灰白色のシルトが生じている。
63.90~63.30	変質し軟質割れ目は不鮮明となり、やや緑色味を帯びる。
64.65~64.91m	破砕帯
64.65m	上盤65° 粘土3mm
64.91m	下盤65° (やや不鮮明)これより上位礫状上下盤の間に剪断面2条あり

層号	深度 (m)	境界・地層位置	地層名	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	最大コア長 (%)	記事
60	60.07				CL	100	4	0	0	0	67	60.07~60.45m
						100	3	0	0	0	67	60.45~61.72m
						100	3	0	0	0	67	61.72~62.36m
61	60.45		GR	緑	CL	100	6	0	0	0	72	60.45~60.82m
						100	4	0	0	0	72	60.82~61.72m
						100	3	0	0	0	72	61.72~62.36m
62	61.72		GR	緑	CL	100	3	0	0	0	73, 74	61.72~62.36m
						100	3	0	0	0	73, 74	62.36~63.25m
						100	3	0	0	0	73, 74	62.36~63.25m
63	62.75		GR	緑	CL	100	2	0	0	0	73, 74	62.75m
						100	3	0	0	0	73, 74	62.75m
64	63.90		GR	緑	CL	100	9	0	0	0	73, 74	63.90~63.30m
						100	3	0	0	0	73, 74	63.90~63.30m

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
67	<ul style="list-style-type: none"> <li>コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> <li>60.45~60.82mについては、その上下の区間と比較して劣化が軽微であることから削除。</li> </ul>
68	<ul style="list-style-type: none"> <li>硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
69	<ul style="list-style-type: none"> <li>硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
70	<ul style="list-style-type: none"> <li>剪断性の割れ目との記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
71	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目に砂やシルトを挟在するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。</li> </ul>
72	<ul style="list-style-type: none"> <li>色調については、補足的なものであるため削除。</li> <li>下端深度63.30→64.30m</li> </ul>
73, 74	<ul style="list-style-type: none"> <li>薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>“破砕度区分”欄のHjに基づき、粘土混じり礫状と記載。</li> <li>“色調”欄に基づき、にぶい橙色と記載。</li> <li>粘土の色調については、見直しにより褐色と記載。</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>剪断面2条ありとの記載については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

標尺 (m)	深度 (m)	境界位置	地質名	細区分				RQD	最大コア長 (cm)	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				割れ目性状	割れ目の向き	風化	実質					
65	65.59						0	3	75		65.59~65.72m 破砕帯される。110mm砂~礫状 65.59m 65° 上盤 65.72m 62° 下盤 部分的に灰白色粘土2~3mm明瞭なガウジは無い。	
66	66.30						0	3	76		66.30~67.28m 割れ目が卓越し、やや脆弱であるが褐色汚染は見られない。 66.30~67.28m 割れ目沿いに褐色汚染が見られる。特に66.80~66.95mの60~70°の高角度の割れ目沿いは顕著。	
67	67.28						0	3	77		67.28~67.78m 変質部。軟質でやや赤味を帯びた灰白色を呈す。割れ目は不明瞭となる。粘土化進む。	
68	68.07						0	3	78		68.07m~ 割れ目が卓越しコアも軟質で表面はザラつく。 68.70m 30°の割れ目、黄褐色粘土を厚さ8mm挟む	
69	69.08						0	3	79		69.08~69.08m 細礫~砂状コア。粘土なし。	
70	70.00						0	3	80		69.28~69.33m 割れ目沿いに劣化。細礫状となる 69.63~69.77m 高角度と低角度の割れ目が交叉。高角度の割れ目沿いに劣化が明瞭 69.85~70.00 割れ目密集、岩片状コア	

記事内容
65.59~65.72m 破砕帯される。110mm砂~礫状 65.59m 65° 上盤 65.72m 62° 下盤 部分的に灰白色粘土2~3mm明瞭なガウジは無い。
66.30~67.28m 割れ目沿いに褐色汚染が見られる。特に66.80~66.95mの60~70°の高角度の割れ目沿いは顕著。
67.28~67.78m 変質部。軟質でやや赤味を帯びた灰白色を呈す。割れ目は不明瞭となる。粘土化進む。
68.07m~ 割れ目が卓越しコアも軟質で表面はザラつく。 68.70m 30°の割れ目、黄褐色粘土を厚さ8mm挟む
69.08~69.08m 細礫~砂状コア。粘土なし。
69.28~69.33m 割れ目沿いに劣化。細礫状となる 69.63~69.77m 高角度と低角度の割れ目が交叉。高角度の割れ目沿いに劣化が明瞭 69.85~70.00 割れ目密集、岩片状コア

標尺	深度	柱状	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	最大コア長 (cm)	記事
65	65.59		花崗斑岩	黄褐色	CL'	100	6	0	63.90	64.30m	63.90~64.30m 変質している。軟質化しており、割れ目は不鮮明である。	
66	66.30		花崗斑岩	褐色	CL'	100	4	0	64.65	64.91m	64.65~64.91m 破砕部である。正断層センスである。褐色色の粘土状~にぶい褐色の粘土混じり塊状を呈する。	
67	67.28		花崗斑岩	灰褐色	CL'	100	3	0	66.80	66.95m	66.80~66.95m 走向・傾斜はN47°Eである。上盤境界の傾斜は65°、下盤境界の傾斜は65°である。	
68	68.07		花崗斑岩	灰白色	CL'	100	3	0	66.50	66.72m	66.50~66.72m 破砕部である。カタクレーサイトからなる。灰白色の粘土状~褐色の砂~礫状を呈する。	
69	69.08		花崗斑岩	淡褐色	CL'	100	9	0	67.28	67.75m	67.28~67.75m 変質している。灰白色を呈し、粘土化している。	
70	70.00		花崗斑岩	淡褐色	CL'	100	6	0	69.28	69.08m	69.28~69.08m 砂~細礫状を呈する。	
70	70.00		花崗斑岩	淡褐色	CL'	100	13	13	74.18	74.34m	74.18~74.34m 傾斜30°~50°の割れ目が多い。	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
75	・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・“色調”欄に基づき、褐色と記載。 ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。
76	・割れ目の発達や脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。
77	・下端深度67.78m⇒67.75m <sup>※3</sup> ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・割れ目の明瞭さについては、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
78	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。 ・68.70mで粘土を挟むが、連続性や直線性に乏しいことから削除。
79	・変更なし
80	・69.28~69.33mで割れ目沿いに細礫状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。

# H27-B-4

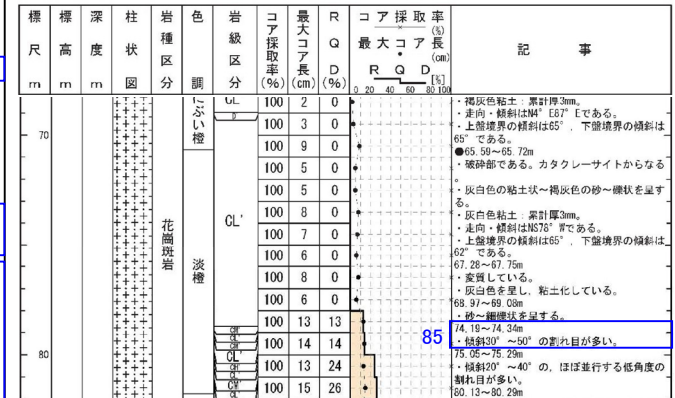
## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地層名	地質	色	構造	備考	細区分		破砕区分	R	Q	D	最大コア長 (cm)	R	Q	D	最大コア長 (cm)	採取率 (%)	R	Q	D	最大コア長 (cm)	採取率 (%)	記事
							細区分	備考																
70	70.06								81															70.06m付近 60° 幅20mm~30mmで局部的に弱く破砕され脆弱となる。
71	71.22								82															71.22m 60°、71.25m 54° 剪断性の割れ目(節理)。この間、幅20~30mm脆弱となる。 71.25~72.73m この間やや軟質でコア表面はザラつく。
72	72.33								83															72.33m 32° の割れ目間に、一見腐植土のようなマンガンに汚染された細粒物と破砕物と思われる暗緑灰色の固い砂状のものを挟む。厚さ8~15mm。
73	73.56								84															73.56m 65° の割れ目に暗褐色に汚染されたシルト質の砂を4~10mm挟む
74	74.16								85															74.16~74.34m 30~50° の割れ目が密集する。脆弱

記事内容
81 70.06m付近 60° 幅20mm~30mmで局部的に弱く破砕され脆弱となる。
82 71.22m 60°、71.25m 54° 剪断性の割れ目(節理)。この間、幅20~30mm脆弱となる。 71.25~72.73m この間やや軟質でコア表面はザラつく。
83 72.33m 32° の割れ目間に、一見腐植土のようなマンガンに汚染された細粒物と破砕物と思われる暗緑灰色の固い砂状のものを挟む。厚さ8~15mm。
84 73.56m 65° の割れ目に暗褐色に汚染されたシルト質の砂を4~10mm挟む
85 74.16~74.34m 30~50° の割れ目が密集する。脆弱



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
81	・弱く破砕され脆弱との記載については、せん断構造や変形構造が不明瞭で、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
82	・剪断性の割れ目との記載があり、割れ目間で脆弱化しているが、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないことから削除。
83	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。 ・72.33mで破砕物と思われるとの記載があるが、割れ目に挟在する砂状部は硬質で、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
84	・シルト質砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
85	・脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目が特に密集する区間として、74.19~74.34mと記載。

コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

深尺 (m)	深層 (m)	地層 名	地層 番号	地質 記号	細区分				RQD	最大 コア長 (cm)	岩 質 記号	基盤岩コア観察カード 記号・破砕性状・詳細スケッチ等
					崩れ	割れ目	結核	その他				
75											86	26.50~26.21 20~40°の低角度の割れ目がほぼ平行して卓越する
76											87	25.77~26.25 割れ目沿いに劣化が見られ、やや脆弱となる。
77											88	27.48~27.67 割れ目特に低角度のもの沿いに劣化が見られコアは軟質となりザラつく
78											89	27.96~28.08 割れ目に沿って劣化が見られ砂状の狭在物が明瞭。
											90	28.21~28.51 多方向の割れ目が卓越し、やや脆弱
79											91	29.45~29.52 マンガンの短い筋状の汚染が多数見られる。高角度のものが多く、この筋上に割れ目として認識できるものは少ない

記事内容	
86	75.05~75.29m 20~40°の低角度の割れ目がほぼ平行して卓越する
87	75.77~76.25m 割れ目沿いに劣化が見られ、やや脆弱となる。
88	77.48~77.67 割れ目特に低角度のもの沿いに劣化が見られコアは軟質となりザラつく
89	77.96~78.08m 割れ目に沿って劣化が見られ砂状の狭在物が明瞭。
90	78.21~78.51m 多方向の割れ目が卓越し、やや脆弱
91	79.45~79.52m マンガンの短い筋状の汚染が多数見られる。高角度のものが多く、この筋上に割れ目として認識できるものは少ない

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア	最大	R	コア	最大	記事
m	m	図	区分	調	区分	採取率 (%)	コア長 (cm)	Q (%)	採取率 (%)	コア長 (cm)	
70			花崗斑岩	淡橙	CL	100	2	0	0	0	・補灰包粘土、累計厚3mm。 ・走向・傾斜はN47°E67°である。 ・上盤境界の傾斜は65°、下盤境界の傾斜は65°である。 ・65.59~65.72m ・破砕部である。カタクレサイトからなる。 ・灰白色の粘土状~褐色の砂~礫状を呈する。 ・灰白色粘土、累計厚3mm。 ・走向・傾斜はN57°E7°である。 ・上盤境界の傾斜は65°、下盤境界の傾斜は62°である。 ・67.28~67.75m ・変質している。 ・灰白色を呈し、粘土化している。 ・68.37~69.08m ・砂~礫層状を呈する。 ・74.19~74.34m ・傾斜30°~50°の割れ目が多い。 75.05~75.29m ・傾斜20°~40°の、ほぼ並行する低角度の割れ目が多い。 80.13~80.29m
					CL	100	3	0	0	0	
					CL	100	9	0	0	0	
					CL	100	5	0	0	0	
					CL	100	5	0	0	0	
					CL	100	8	0	0	0	
					CL	100	7	0	0	0	
					CL	100	6	0	0	0	
					CL	100	8	0	0	0	
					CL	100	6	0	0	0	
80					CL	100	13	13	0	0	
					CL	100	14	14	0	0	
					CL	100	13	24	0	0	
					CL	100	15	26	0	0	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
86	・変更なし
87	・脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
88	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。
89	・割れ目沿いに劣化し、一部で砂状を呈するが、連続性や直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
90	・割れ目の発達や脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
91	・マンガン、割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。

コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界位置	地層	割れ目状態		風化	硬軟	RQD	最大コア長	岩級区分	記事
				割れ目状態	割れ目状態						
80	80.13			+	+						92
	80.29			+	+						93
	80.51			+	+						94
81	81.05			+	+						95
	81.30			+	+						96
	81.32			+	+						97
82	82.32			+	+						96
	83.08			+	+						96
83	83.32			+	+						96
	84.09			+	+						97
84	84.77			+	+						97

記事内容
92 80.13~80.29m 35~55°の同方向の割れ目が密集する
93 80.29~80.51m 割れ目の頻度はやや少なくなるが、割れ目沿いの劣化は明瞭
94 80.51~81.02m 割れ目には挟在物が見られるものが多いが、岩質は硬い
95 81.30~81.96m 割れ目の挟在物も薄く、岩質も硬質。高角度の微細な割れ目が見られるが、完全に密着している
96 83.08~83.32m 割れ目に沿った褐色汚染が明瞭。汚染は、割れ目沿いのみならずコアの半分程度に及ぶ
97 84.09~84.77m 割れ目が卓越し、岩質も軟質となる。特に84.39~85.58間は劣化が進み、脆弱

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	最大コア長	コア採取率	記事
m	m	図	区分	調	区分	(%)	(cm)	(%)	(cm)	(%)	
80					CL	100	13	13			・砂~細礫状を呈する。 74.19~74.56m ・傾斜30°~50°の割れ目が多い。 75.05~75.29m ・傾斜20°~40°の、ほぼ並行する低角度の割れ目が多い。 80.13~80.29m ・傾斜35°~55°の、同方向の割れ目が多い 83.32~84.05m ・硬質であるが、割れ目が多く、短柱~柱状を呈する。 84.09~84.77m ・割れ目が多く、軟質化している。 86.14~88.26m ・硬質である。 ・主として、柱状~長柱状を呈する。 89.27~89.46m ・微細な割れ目が多い。
					CL	100	14	14			
					CL	100	13	24			
					CL	100	15	26			
					CM	100	13	13			
					CL	100	12	34			
					CM	100	8	0			
					CL	100	9	0			
					CM	100	13	23			
					CM	100	23	62			
					CL	100	13	24			
					CL	100	8	20			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
92	・変更なし
93	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
94	・割れ目の挟在物については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
95	・割れ目の挟在物、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・高角度の割れ目については、連続性に乏しいことから削除。
D	・“コアの硬さ”欄に基づき硬質、“コアの形状”欄に基づき、短柱~柱状と記載。
96	・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。
97	・84.39~85.58mで劣化が進行しているが、劣化に系統性は認められないことから、84.09~84.77mの記載に含めて示すこととして削除。

コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

深尺 (m)	深度 (m)	境界・異層位置	地質名	割れ目 時期	割れ目 性状		RQD	最大コア長	岩級区分	破砕帯区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・異層スケッチ等
					開口率	開口率					
85											
85.77									98		85.73~85.97m 高角度の2条の割れ目に挟まれた範囲で割れ目が卓越 岩片状となる。
86.77									99		86.73~86.83m 上下の割れ目(節理)に挟まれた区間で局所的に砂~礫状となる
87.96									100		86.96m~88.03 割れ目面や割れ目沿いは、褐色やマンガンの汚染が明瞭であるが、狭在物はほとんど見られない。岩質も硬い。
88.96									101		88.96m 45°の割れ目の下盤側劣化し局所に非常に脆弱 上盤側は巾20mmマンガンの汚染がコアに明瞭
89.27									102		89.27~89.44m 微細な割れ目が卓越する。コアも幾分軟質

記事内容
85.73~85.97m 高角度の2条の割れ目に挟まれた範囲で割れ目が卓越 岩片状となる。
86.73~86.83m 上下の割れ目(節理)に挟まれた区間で局所的に砂~礫状となる
86.96m~88.03 割れ目面や割れ目沿いは、褐色やマンガンの汚染が明瞭であるが、狭在物はほとんど見られない。岩質も硬い。
88.96m 45°の割れ目の下盤側劣化し局所に非常に脆弱 上盤側は巾20mmマンガンの汚染がコアに明瞭
89.27~89.44m 微細な割れ目が卓越する。コアも幾分軟質

標尺 mm	標高 mm	深度 mm	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)			記事
												R	Q	D	
80							100	13	13						砂~礫状を呈する。 74.18~74.34m ・傾斜30°~50°の割れ目が多い。 75.05~75.29m ・傾斜20°~40°の、ほぼ並行する低角度の割れ目が多い。 80.13~80.29m ・傾斜35°~55°の、同方向の割れ目が多い 83.32~84.05m ・硬質であるが、割れ目が多く、短柱~柱状を呈する。 84.09~84.77m ・割れ目が多く、軟質化している。 86.14~88.26m ・硬質である。 ・主として、柱状~長柱状を呈する。
							100	14	14						
							100	13	24						
							100	15	26						
							100	13	13						
							100	12	34						
							100	8	0						
							100	9	0						
							100	13	23						
							100	23	62						
							100	13	24						
							100	8	20						

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
98	・割れ目の発達については、RQD,最大コア長, 岩級区分で示していることから削除。
E	・“コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。 ・“コアの形状”欄を見直すとともに最大コア長を踏まえ、柱状~長柱状と記載。
99	・砂~礫状については、掘削時の機械割れと判断し削除。
100	・割れ目の変色、マンガン、狭在物の有無については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
101	・非常に脆弱との記載があるが、劣化部の連続性に乏しいことから削除。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
102	・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地層・地質 位置	地層 名称	細区分				RQD	最大コア長 (cm)	破砕度 区分	記事
				割れ目の 形状	割れ目の 長さ	割れ目の 間隔	割れ目の 方向				
90											
91	90.75			100%			100	17	103	90.75~91.96m 微細な高角度の割れ目が卓越する。高角度の割れ目は、50°以下の低角度の顕在化した割れ目に切られるものが多い。	
	91.45						100	6	103	91.45m 48° 剪断性の割れ目(節理)、幅6mmで幾分破砕され、緑色味を帯びる	
92											
	92.55						100	14	104	92.55~92.71m 高角度と低角度の割れ目が交叉し、亀甲状となる。岩質もやや軟質である。	
93											
	93.13						100	3	105	93.13~93.22m 破砕帯	
	93.22						100	5	106	93.13m 上盤30° 粘土12mm主 93.22m 下盤50° 粘土なし、上盤の下側50mm軟質で粘土脈が見られる。	
94											
	94.38						100	11	107	94.38~94.40m 剪断性の節理2条、割れ目沿いに劣化し脆弱となる。	
95											

記事内容
90.75~91.96m 微細な高角度の割れ目が卓越する。高角度の割れ目は、50°以下の低角度の顕在化した割れ目に切られるものが多い。
91.45m 48° 剪断性の割れ目(節理)、幅6mmで幾分破砕され、緑色味を帯びる
92.55~92.71m 高角度と低角度の割れ目が交叉し、亀甲状となる。岩質もやや軟質である。
93.13~93.22m 破砕帯
93.13m 上盤30° 粘土12mm主 93.22m 下盤50° 粘土なし、上盤の下側50mm軟質で粘土脈が見られる。
94.38~94.40m 剪断性の節理2条、割れ目沿いに劣化し脆弱となる。

標尺 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R D (%)	最大コア長 R・Q・D (cm)	コア採取率 (%)	記事
					CM'	100	17	17			
					CL'	100	6	0			
					CL'	100	14	14			
					CL'	100	3	0			
					CL'	100	6	0			
					CL'	100	3	0			
					CL'	100	11	11			
					CL'	100	5	0			
					CL'	100	9	0			

●93.13~93.22m  
・境界部である。  
・右ずれ正断層センスである。  
・明緑灰色の粘土状～浅黄褐色の粘土混じり礫状を呈する。  
・明緑灰色粘土：需針厚12mm。  
・走向・傾斜はN10° E78° Wである。  
・上盤境界の傾斜は30°、下盤境界の傾斜は50°である。  
97.10~97.58m  
97.81~98.03m  
・割れ目が多く、砂礫状を呈する。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
103	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目に切られるとの記載、91.45mの剪断性の割れ目との記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
104	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
105, 106	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・粘土区間以外の粒度について、見直しにより、粘土混じり礫状と記載。 ・“色調”欄に基づき、浅黄褐色と記載。 ・粘土の色調については、見直しにより明緑灰色と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・粘土脈については、いずれも連続性に乏しいことから削除。
107	・94.38~94.40mで割れ目沿いに脆弱化しているが、劣化部の直線性や連続性に乏しいことから削除。



コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地質名	色調	細区分				RQD	最大コア長 (cm)	記事
				割れ目形状	風化	実質	備考			
95.08	95.08	GR	浅黄褐色	D	V	V	V	108	95.08~95.37 35~60°の平行した割れ目に沿って弱い変質作用を受ける。割れ目沿いはやや緑色味を帯びる。	
95.65	95.65~95.75m 劣化し脆弱となる。輝沸石が散在し(熱水の影響)光る。									
96.20	96.20~96.32 30°の剪断性の割れ目(節理)。幅30~40mmで脆弱、軟質となり弱い破砕を受ける一部緑色味を帯びる									
97.10	97.10~97.58m, 97.81~98.03m 割れ目が著しく卓越し、粗砂と岩片が入り混じった状態のコアとなる									
98.02	98.02~98.27m 短柱状~岩片状コア。割れ目に沿った劣化が顕著。									
99.05	99.05~99.10m 局所的に劣化が進み礫状となる。汚染も顕著	GR	浅黄褐色	D	V	V	V	113	99.05~99.10m 局所的に劣化が進み礫状となる。汚染も顕著	
99.10	99.10m付近 輝沸石が明瞭に見られる									

記事内容
108 95.08~95.37 35~60°の平行した割れ目に沿って弱い変質作用を受ける。割れ目沿いはやや緑色味を帯びる。 95.65~95.75m 劣化し脆弱となる。輝沸石が散在し(熱水の影響)光る。
109 96.20~96.32 30°の剪断性の割れ目(節理)。幅30~40mmで脆弱、軟質となり弱い破砕を受ける一部緑色味を帯びる
110 97.10~97.58m, 97.81~98.03m 割れ目が著しく卓越し、粗砂と岩片が入り混じった状態のコアとなる
111 98.02~98.27m 短柱状~岩片状コア。割れ目に沿った劣化が顕著。
112 99.27~99.53m 柱状~短柱のコアとして採取されるが密着した微細な割れ目が非常に多く、軟質でコア表面はザラつく。
113 99.05~99.10m 局所的に劣化が進み礫状となる。汚染も顕著 99.10m付近 輝沸石が明瞭に見られる

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	記事
100	95.08	+	GR	浅黄褐色	CL'	100	14	14	●93.13~93.22m 破砕部である。必ず正断層センスである。 ・明緑灰色の粘土~浅黄褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・明緑灰色粘土：累計厚12mm。 ・走向：傾斜はN10°E70°Wである。 ・上盤境界の傾斜は30°、下盤境界の傾斜は50°である。 97.10~97.58m 97.81~98.03m ・割れ目が多く、砂礫状を呈する。
	95.65	+	GR	浅黄褐色	CL'	100	13	13	
	96.20	+	GR	浅黄褐色	CL'	100	3	0	
	96.20	+	GR	浅黄褐色	CL'	100	6	0	
	96.20	+	GR	浅黄褐色	CL'	100	3	0	
	96.20	+	GR	浅黄褐色	CL'	100	11	11	
	96.20	+	GR	浅黄褐色	CL'	100	5	0	
	96.20	+	GR	浅黄褐色	CL'	100	9	0	
	96.20	+	GR	浅黄褐色	CL'	100	14	14	
	96.20	+	GR	浅黄褐色	CL'	100	13	13	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
108	・脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目沿いの色調、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
109	・割れ目沿いに軟化し、弱い破砕を受けるとの記載があるが、連続性や直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・色調については、補足的なものであるため削除。
110	・粗砂と岩片が入り混じったとの記載に基づき、砂礫状と記載。
111	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分に含めて示しているため削除。
112	・割れ目の発達程度については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
113	・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 ・一部で礫状を呈するが、連続性に乏しいことから削除。

コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

基礎岩コア観察カード									
記事・破砕性状・顕微スケッチ等									
深尺	深度	地層・地層区分	地層名	割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状
(m)	(m)								
100									
101									
102									
103									
104									
105									

記事内容
114 100.28m、100.30m 50°～55°の割れ目中に砂状の破砕物を厚さ2～4mm挟む。褐色汚染明瞭
115 100.45m 25°の低角度割れ目の周辺に鮮やかな青色の変質鉱物が見られる。この鉱物は塩酸で溶けないことから孔雀石ではなく、珪孔雀石の可能性はある。
116 101.31～101.43m 低角度を主体としたの割れ目が集中。割れ目沿いの劣化も明瞭、一部局所的に礫状となる。
117 101.43～102.23m 柱状～長柱状のコアが主体。岩質も堅硬である。
118 102.23～102.37m 割れ目がやや卓越。102.23m、102.25mは剪断性の節理で、割れ目沿いの劣化が明瞭
119 103.40～103.55m 高角度主体の微細な割れ目が卓越する
120 104.03～104.17m 50°～60°の剪断性の割れ目(節理)が卓越する
120 104.50～104.90m コアは斑状の褐色汚染が明瞭である。

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	コア採取率	最大コア長	記事
m	m	m	図	調	分	(%)	(cm)	(%)			(%)	(cm)	
100					CL'	100	5	0			97.81	98.03m	割れ目が多く、砂礫状を呈する。
					CH'	100	36	51					
					CL'	100	17	27			116	101.43～102.23m	硬質である。 主として、柱状～長柱状を呈する。
					CM'	100	13	13					
					CM'	100	14	14					
					CM'	100	18	44					
					GM'	100	16	40					
					GM'	100	19	42					
					GM'	100	22	22					
					CL'	100	5	0					●108.44～108.71m 破砕部である。カタクレーサイトからなる

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
114	・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。 ・一部で砂を挟み、破砕物との記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
115	・割れ目沿いの変色、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 ・101.31～101.43mの一部で礫状を呈するが、礫状部の連続性に乏しいことから削除。
116	・変更なし
117	・102.23mと102.25mで剪断性の節理との記載があり、割れ目間で劣化しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
118	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
119	・割れ目の傾斜については、周囲の割れ目と差異が認められないため削除。 ・剪断性の割れ目との記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
120	・変色については、補足的なものであるため削除。

# H27-B-4 コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界 亀裂位置	地質名	色調	割れ目の 状況	割れ目の 長さ	割れ目の 幅	割れ目の 方向	RQD	最大コア長	破砕度区分		基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
											破砕度区分	最大コア長	
105	105.08										121	105.08~105.80m 柱状コアが主体で岩質も堅硬。	
106	106.31										122	106.31~106.38m 局所的に割れ目が集中する。割れ目沿いの劣化も僅かに見られる。	
107	106.58										123	106.58~106.92m コアに斑状の褐色汚染が見られる	
108	106.87										124	106.87m 30°の割れ目に、汚染されて褐色となった砂〜シルトが厚さ3mmで挟在する	
109	107.47										125	107.47~108.34m 堅硬な柱状コアが主体。割れ目やコア表面にマンガンと褐色汚染が見られるが挟在物はほとんど見られない	
110	108.44										125	108.44~108.71m 弱い剪断破壊を受け、コアは軟質となる。割れ目も若干不鮮明となる。 108.67~108.71m 褐色汚染が明瞭、褐色の軟質な基質に礫状部が点在する。	
111	108.71										126	108.71~109.79m 割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化も見られやや脆弱である。108.71~108.90m 2方向の割れ目が明瞭で、格子状となる。	

記事内容
121 105.08~105.80m 柱状コアが主体で岩質も堅硬。
122 106.31~106.38m 局所的に割れ目が集中する。割れ目沿いの劣化も僅かに見られる。
123 106.58~106.92m コアに斑状の褐色汚染が見られる
124 106.87m 30°の割れ目に、汚染されて褐色となった砂〜シルトが厚さ3mmで挟在する
125 107.47~108.34m 堅硬な柱状コアが主体。割れ目やコア表面にマンガンと褐色汚染が見られるが挟在物はほとんど見られない
125 108.44~108.71m 弱い剪断破壊を受け、コアは軟質となる。割れ目も若干不鮮明となる。 108.67~108.71m 褐色汚染が明瞭、褐色の軟質な基質に礫状部が点在する。
126 108.71~109.79m 割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化も見られやや脆弱である。108.71~108.90m 2方向の割れ目が明瞭で、格子状となる。

標尺	深度	柱状	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	最大コア長 (cm)	コア採取率 (%)	記事
			花崗斑岩		GM'	100	14	14					
				に濃い黄褐色	GM'	100	18	44					104.67~108.44m ・礫部であるが、割れ目が多く、短柱~柱状を呈する。
				黄褐色	GM'	100	16	40					
				に濃い黄褐色	GM'	100	19	42					
				黄褐色	CL'	100	22	22					●108.44~108.71m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる
				に濃い黄褐色	GM'	100	10	10					・浅黄褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・5方向・傾斜法20° E87° Eである。
					GM'	100	16	16					110.05~115.29m

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
121	・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
F	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬部、短柱~柱状と記載。
122	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・変色については、補足的なものであるため削除。
123	・砂〜シルトを挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
124	・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・マンガン、変色、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
125	・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなること記載。 ・“色調”欄に基づき、浅黄褐色と記載。 ・“破砕度区分”欄のHjに基づき、粘土混じり礫状と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・変色については、補足的なものであるため削除。
126	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。

# H27-B-4

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界 種類 記号	色調	細区分		RQD	最大コア長 (cm)	岩級区分	記事										
				割れ目の形状	割れ目の密度														
110	110.03	GP	黄緑	細	B	3	110.04	CL	110.03~110.78m 微細な割れ目が集中する所もあるが、コアは硬く、割れ目も多くは密着している										
111	111.57								粗	A	3	111.58	CM	111.57m付近 局所的に割れ目面が鮮やかな青緑色に変色している					
112	112.84													粗	A	3	112.85	CH	112.84~113.03m 高角度の割れ目が優勢である。シャープな割れ目は見られないが狭在物は無く、弱い褐色染が認められる
113	113.41																		粗
114	114.57	粗	A	3	114.58	CH	114.57~114.76m 割れ目が卓越する114.60~114.66mの間40°程度の平行した割れ目が密集、114.73m付近は礫~岩片状となる。												

記事内容	記事
110.03~110.78m 微細な割れ目が集中する所もあるが、コアは硬く、割れ目も多くは密着している	127
111.57m付近 局所的に割れ目面が鮮やかな青緑色に変色している	128
112.84~113.03m 高角度の割れ目が優勢である。シャープな割れ目は見られないが狭在物は無く、弱い褐色染が認められる	
113.41~113.54m 割れ目がやや卓越する113.43mの割れ目沿いに劣化が見られ幅5~30mm軟質脆弱となる。	129
114.57~114.76m 割れ目が卓越する114.60~114.66mの間40°程度の平行した割れ目が密集、114.73m付近は礫~岩片状となる。	130



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
127	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。
G	・“コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。 ・“コアの形状”欄に基づき、短柱状と記載。一部でより割れ目間隔の大きな区間が分布することから、柱状と記載。
128	・割れ目の変色、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
129	・割れ目については、掘削時の機械割れと判断し削除。
130	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。

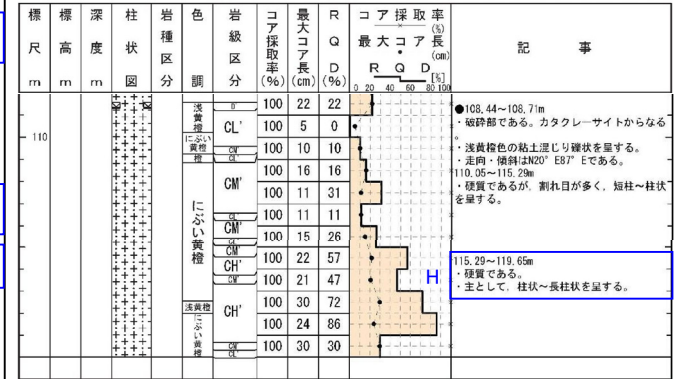
コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

深尺 (m)	深度 (m)	境界 位置	地層 名称	割れ目 状態	割れ目 形状	割れ目 長さ	割れ目 幅	割れ目 間隔	割れ目 方向	割れ目 角度	割れ目 色	割れ目 内容	割れ目 観察		備考	
													長さ	幅		
115.40	115.40															
115.46	115.46															
116.30	116.30															
116.52	116.52															
117.83	117.83															
119.65	119.65															
119.83	119.83															

記事内容	
131	115.40～115.54m 115.46m付近の2条の潜在的な割れ目を中心に褐色汚染が明瞭。黄鉄鉱の分解により生じた水酸化鉄である。
132	116.30m 57°の割れ目間に厚さ5mmの褐色に汚染された砂状の狭在物が見られる
133	116.52～119.32 柱状～長柱状の堅硬なコアが主体となる
134	117.83m 50°の割れ目に沿って熱水変質が見られ、やや緑色味を帯びる(緑泥石化作用)割れ目の周囲には輝沸石が生じている。
135	119.65～119.83m 割れ目がやや卓越する。割れ目面には、マンガン及び褐色の汚染が明瞭で、一部の割れ目面には砂～シルト状の狭在物が見られる

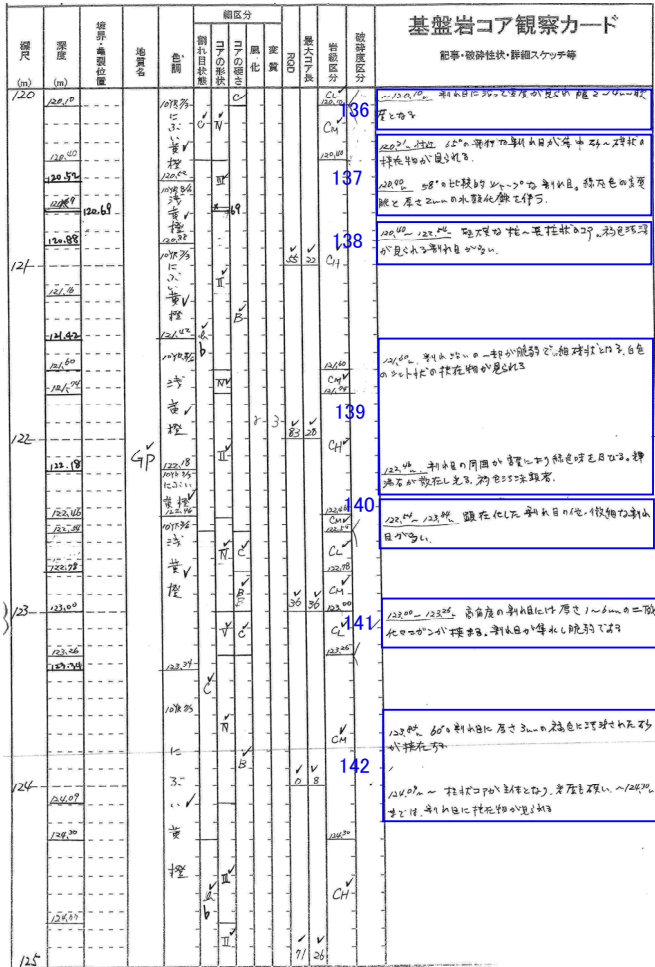


記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
H	・“コアの硬さ”欄に基づき硬質, “コアの形状”欄に基づき柱状～長柱状と記載。
131	・割れ目の変色, 鉱物の晶出については, 補足的なものであるため削除。
132	・砂を挟在するが, 周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
133	・硬軟や割れ目の発達程度については, RQD, 最大コア長, 岩級区分で示していることから削除。
134	・割れ目沿いの鉱物の晶出, 変色については, 補足的なものであるため削除。
135	・割れ目の発達程度については, RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。 ・一部に砂・シルトを挟在するが, 連続性に乏しく, 周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・マンガンや変色については, 補足的なものであるため削除。

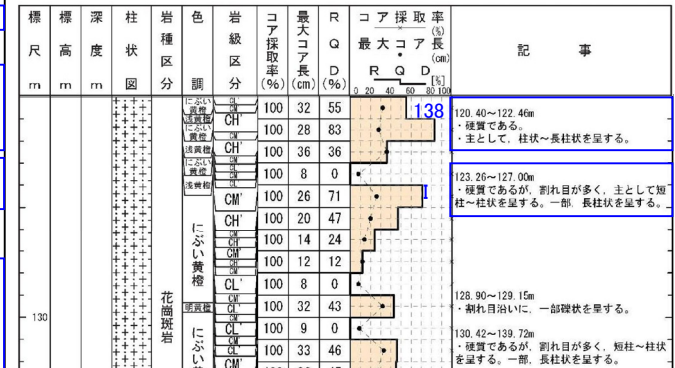
# H27-B-4 コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図



記事内容
136 ~120.10m 割れ目に沿って変質が見られ幅2~4mm軟質となる
137 120.31m付近 65°の平行な割れ目が集中砂~礫状の狭在物が見られる 120.40m 58°の比較的シャープな割れ目。緑灰色の変質脈と厚さ2mmの水酸化鉄を伴う。
138 120.40~122.54m 堅硬な柱~長柱状のコア。褐色汚染が見られる割れ目が多い。
139 121.60m 割れ沿いの一部が脆弱で細礫状となる。白色のシルト状の狭在物が見られる
140 122.46m 割れ目の周囲が変質により緑色味を及ぼる。輝沸石が散在し光る。褐色汚染顕著。
141 122.54~123.84m 顕在化した割れ目他、微細な割れ目が多い。
142 123.00~123.26m 高角度の割れ目には厚さ1~6mmの二酸化マンガンが挟まる。割れ目が集水し脆弱である
143 123.85m 60°の割れ目に厚さ3mmの褐色に汚染された砂が狭在する
144 124.09m~ 柱状コアが主体となり、岩質も硬い。~124.30mまでは割れ目に狭在物が見られる

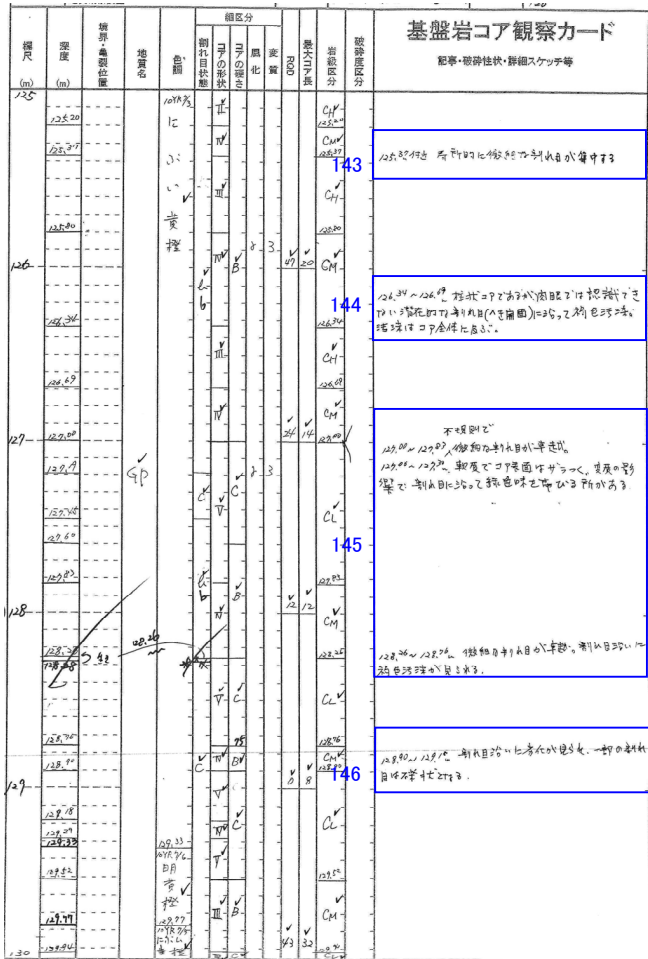


記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
136	・割れ目沿いに軟質となるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
137	・120.31m付近で砂~礫を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
138	・下端深度については、“コアの形状”欄に基づき、122.46mと記載。 ・変色については、補足的なものであるため削除。
139	・一部割れ目沿いで細礫状を呈し、シルトを挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・色調、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
140	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
141	・マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・脆弱化している部分は局所的であり、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
1	・“コアの硬さ”欄に基づき硬質、“コアの形状”欄に基づき主として短柱~柱状、一部、長柱状と記載。
142	・123.85mで砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。

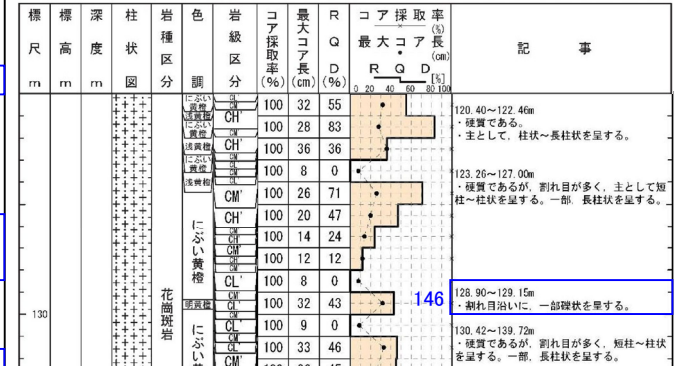
コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
143 125.37m付近 局所的に微細な割れ目が集中する
144 126.34~126.69m 柱状コアであるが、肉眼では認識できない潜在的な割れ目(へき開面)に沿って褐色汚染。汚染はコア全体に及ぶ。
145 127.00~127.83 不規則で微細な割れ目が卓越。 127.06~127.30m 軟質でコア表面はザラつく。変質の影響で割れ目に沿って緑色味を帯びる所がある
146 128.26~128.76m 微細な割れ目が卓越。割れ目沿いに褐色汚染が見られる。 128.90~129.15m 割れ目沿いに劣化が見られ、一部の割れ目は礫状となる。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
143	・割れ目の発達程度については、周囲の割れ目と差異が認められないため削除。
144	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・変色については、補足的なものであるため削除。
145	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・コア表面の粗さ、割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。
146	・変更なし